

2-2 水道水の水質

(1) 飲み水としての水質の満足度

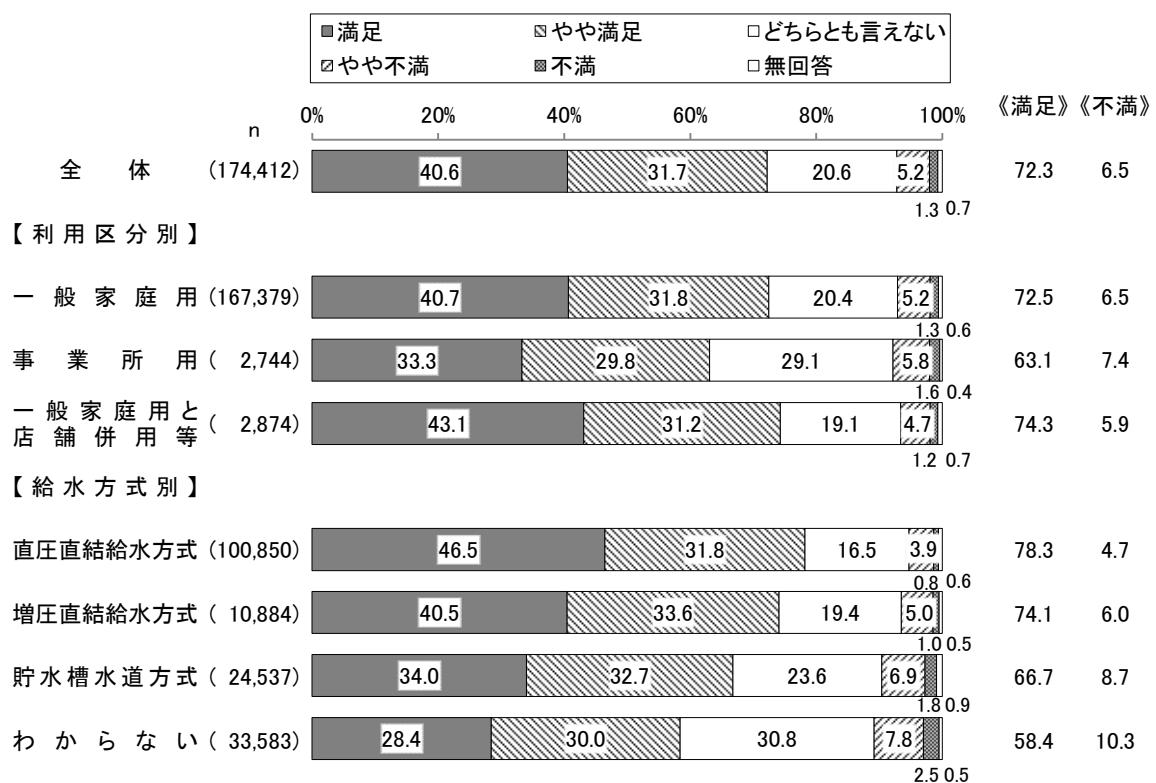
問 東京の水道水の飲み水としての水質を、どのように感じますか。

1) 満足 2) やや満足 3) どちらとも言えない 4) やや不満 5) 不満

〔A : 問7、B : 問6、C : 問6、D : 問7〕

〔調査結果〕

① 飲み水としての水質の満足度（給水方式別）〈図表2-2-1〉



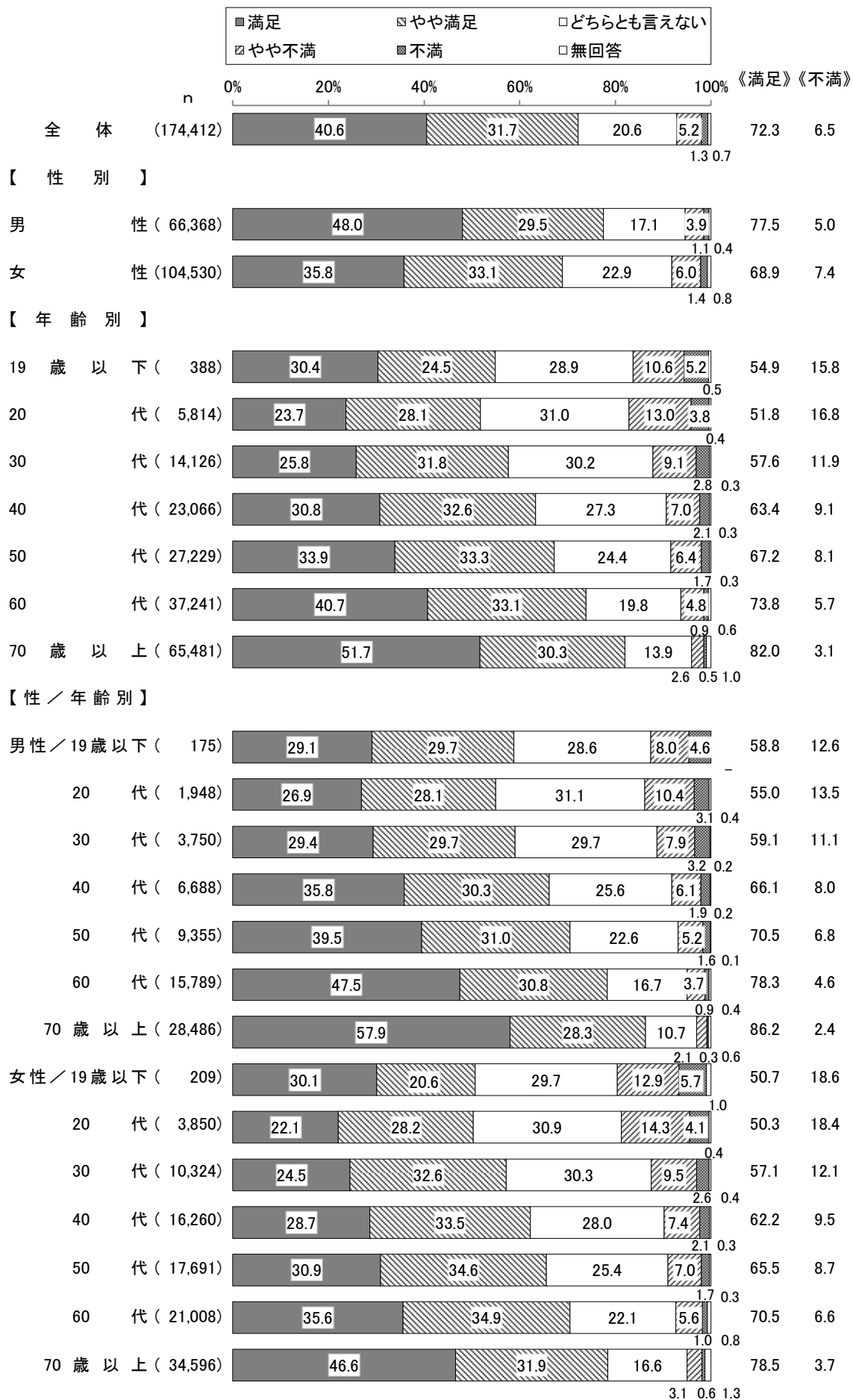
＜特徴＞

○全体でみると、「満足」が40.6%と最も高く、「やや満足」(31.7%)を合わせた《満足》は72.3%となっている。一方、「やや不満」(5.2%)と「不満」(1.3%)を合わせた《不満》は6.5%となっている。

○利用区分別では、《満足》は、一般家庭用と店舗併用等で74.3%と最も高くなっている。

○給水方式別では、《満足》は、直圧直結給水方式で78.3%と最も高くなっている。

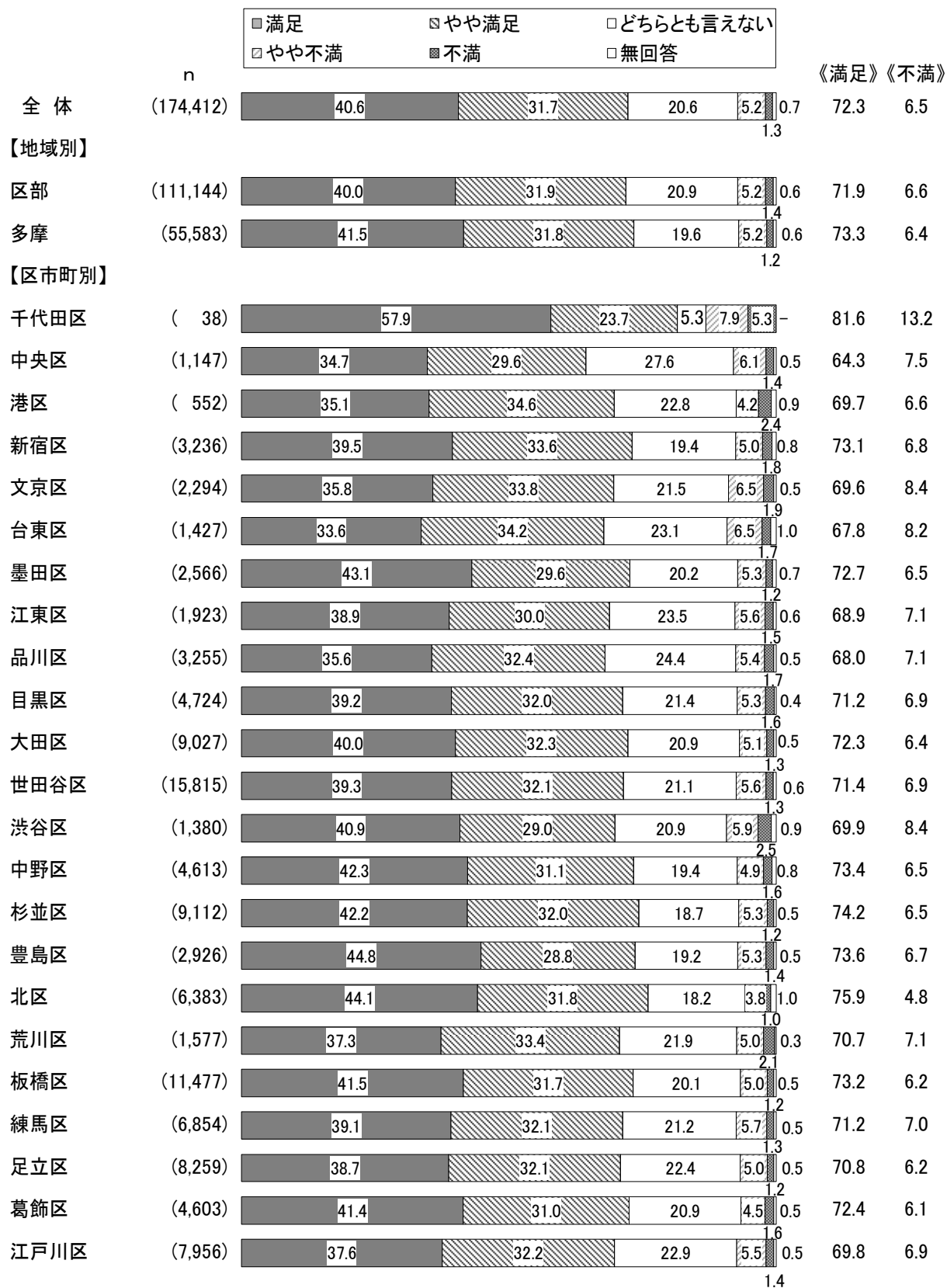
② 飲み水としての水質の満足度（属性別）〈図表２－２－２〉



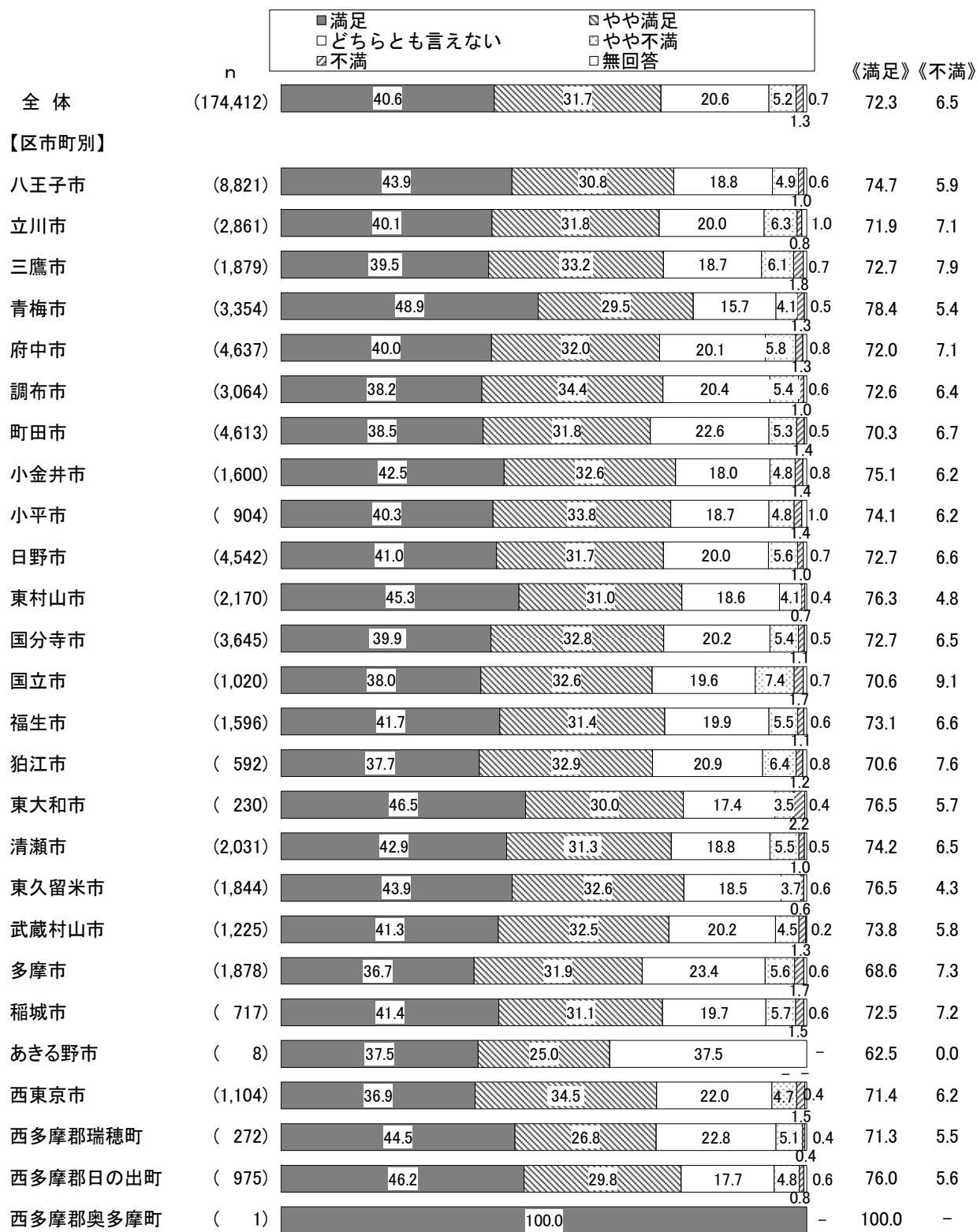
<特徴>

- 性別では、《満足》は、男性（77.5%）の方が女性（68.9%）より8.6ポイント高くなっている。
- 年齢別では、《満足》は、20代（51.8%）から年齢が上がるにつれ割合が高くなり、70歳以上（82.0%）で最も高くなっている。
- 性／年齢別では、《満足》は、男女とも70歳以上（男性：86.2% 女性：78.5%）で高く、一方《不満》は女性の19歳以下（18.6%）と20代（18.4%）で2割弱と高くなっている。

③ 飲み水としての水質の満足度（地区別、区市町別）〈図表２－２－３〉



③ 飲み水としての水質の満足度（地区別、区市町別）〈図表２－２－４〉

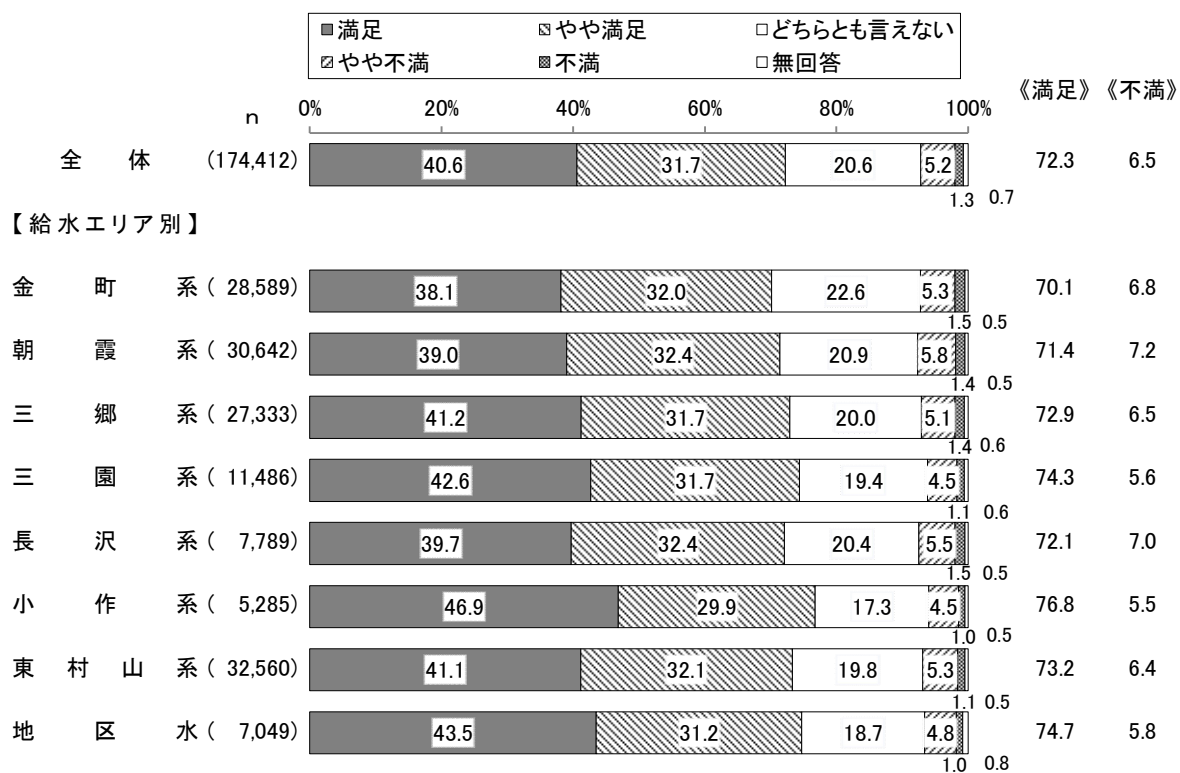


<特徴>

○地域別では、《満足》に特に大きな違いはみられない。

○区市町別でみると、《満足》は、区部では千代田区(81.6%)が8割を超え最も高く、次いで北区(75.9%)、杉並区(74.2%)と続いている。多摩では青梅市(78.4%)が8割近くで最も高く、次いで東久留米市と東大和市(ともに76.5%)、東村山市(76.3%)と続いている。

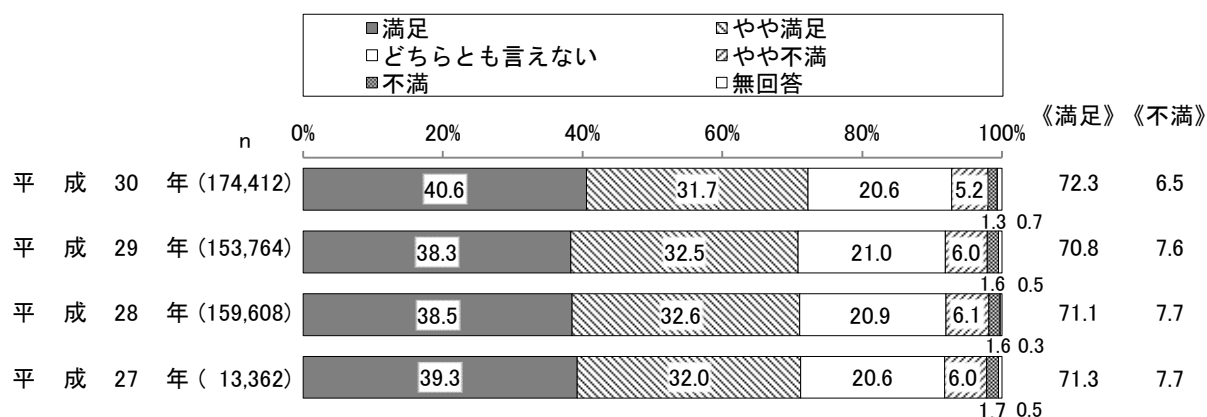
④ 飲み水としての水質の満足度（給水エリア別）〈図表２－２－５〉



<特徴>

○給水エリア別では、《満足》は、小作系（76.8％）で最も高く、次いで、地区水（74.7％）となっている。

⑤ 飲み水としての水質の満足度（時系列：全体）〈図表 2－2－6〉

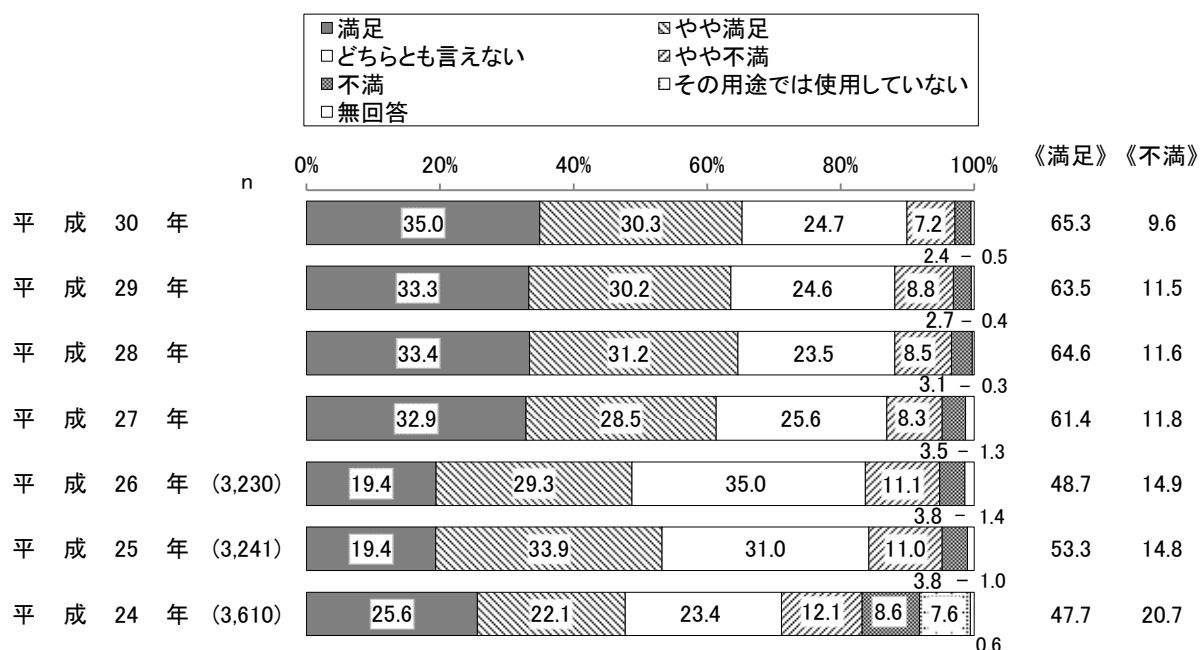


＜特徴＞

○前年度調査との比較では、特に大きな違いはみられない。

平成27年度から平成30年度までの4年間の傾向でも、特に大きな違いはなく、《満足》が7割強、「どちらとも言えない」が2割強で推移している。

参考 飲み水としての水質の満足度（時系列：全体）〈図表 2－2－7〉

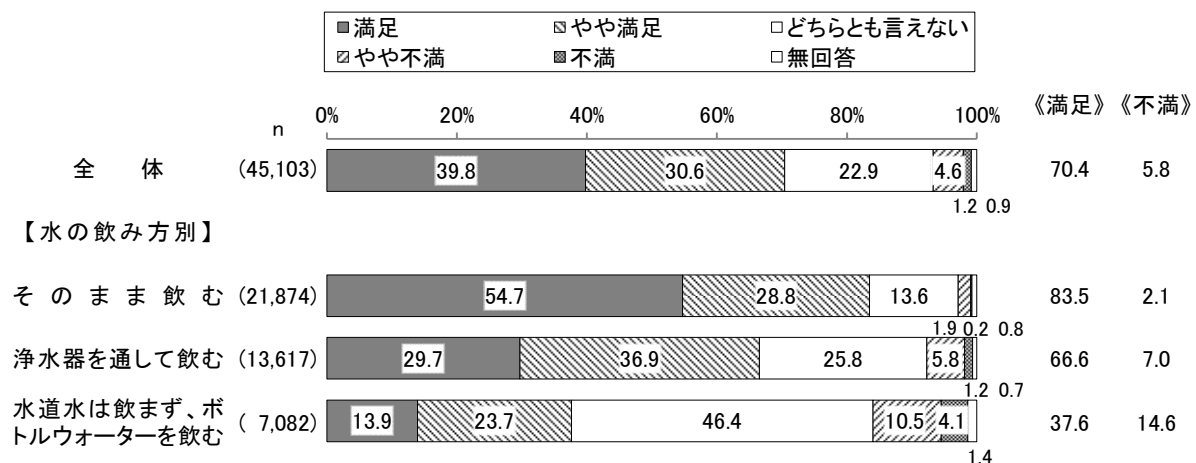


＜特徴＞

○参考までにウェイトバック集計値で、今年度調査を全体で見ると、「満足」が35.0%で最も高く、「やや満足」（30.3%）を合わせた《満足》は65.3%となっている。「どちらとも言えない」は24.7%となっている。

[詳細分析] (分析の軸はA票の設問)

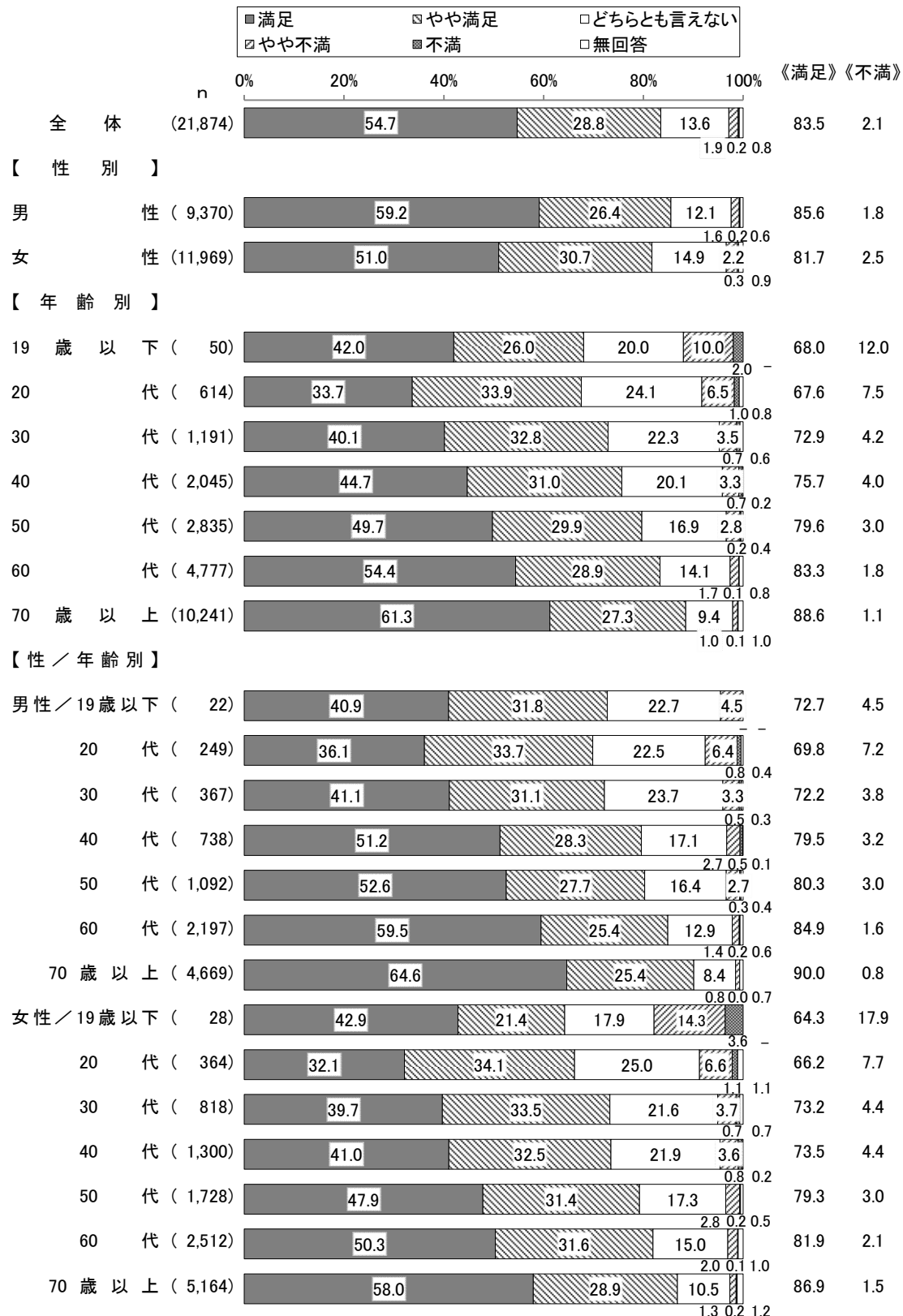
⑥ 飲み水としての水質の満足度 (水の飲み方別) (図表 2-2-8)



<特徴>

○水の飲み方別では、《満足》は、水をそのまま飲む人 (83.5%) で最も高くなっている。一方、《不満》は、水道水は飲まず、ボトルウォーターを飲む人 (14.6%) で最も高くなっている。

⑥－１ 「そのまま飲む」人の「飲み水としての水質の満足度」(属性別)〈図表２－２－９〉



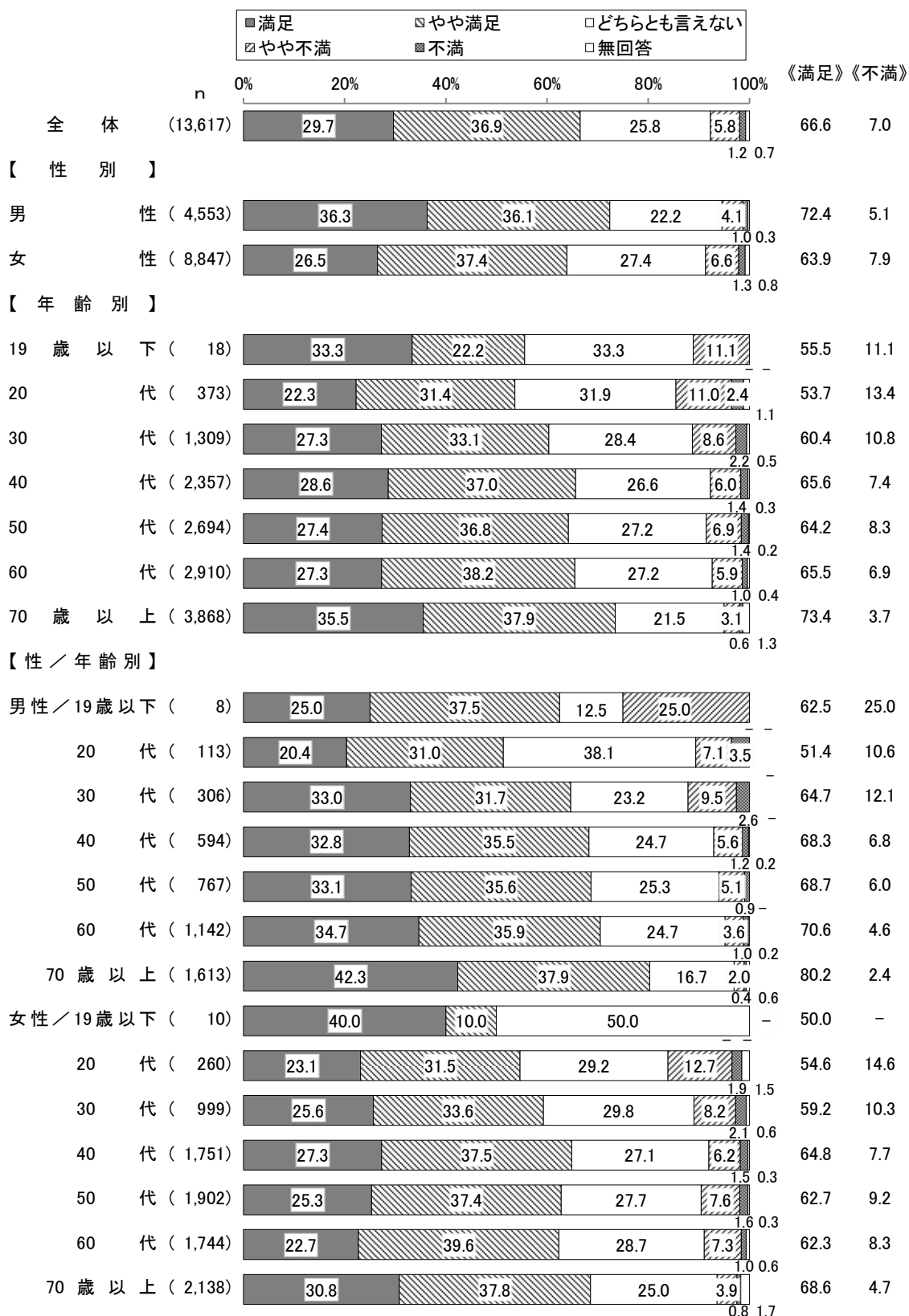
<特徴>

○性別では、《満足》は、男性（85.6%）の方が女性（81.7%）より3.9ポイント高くなっている。

○年齢別では、《満足》は、70歳以上（88.6%）で最も高く、一方《不満》は、19歳以下（12.0%）で最も高くなっている。

○性／年齢別では、《満足》は、男性の70歳以上（90.0%）で最も高くなっている。

⑥ー２ 「浄水器を通して飲む」人の「飲み水としての水質の満足度」(属性別)〈図表２－２－１０〉



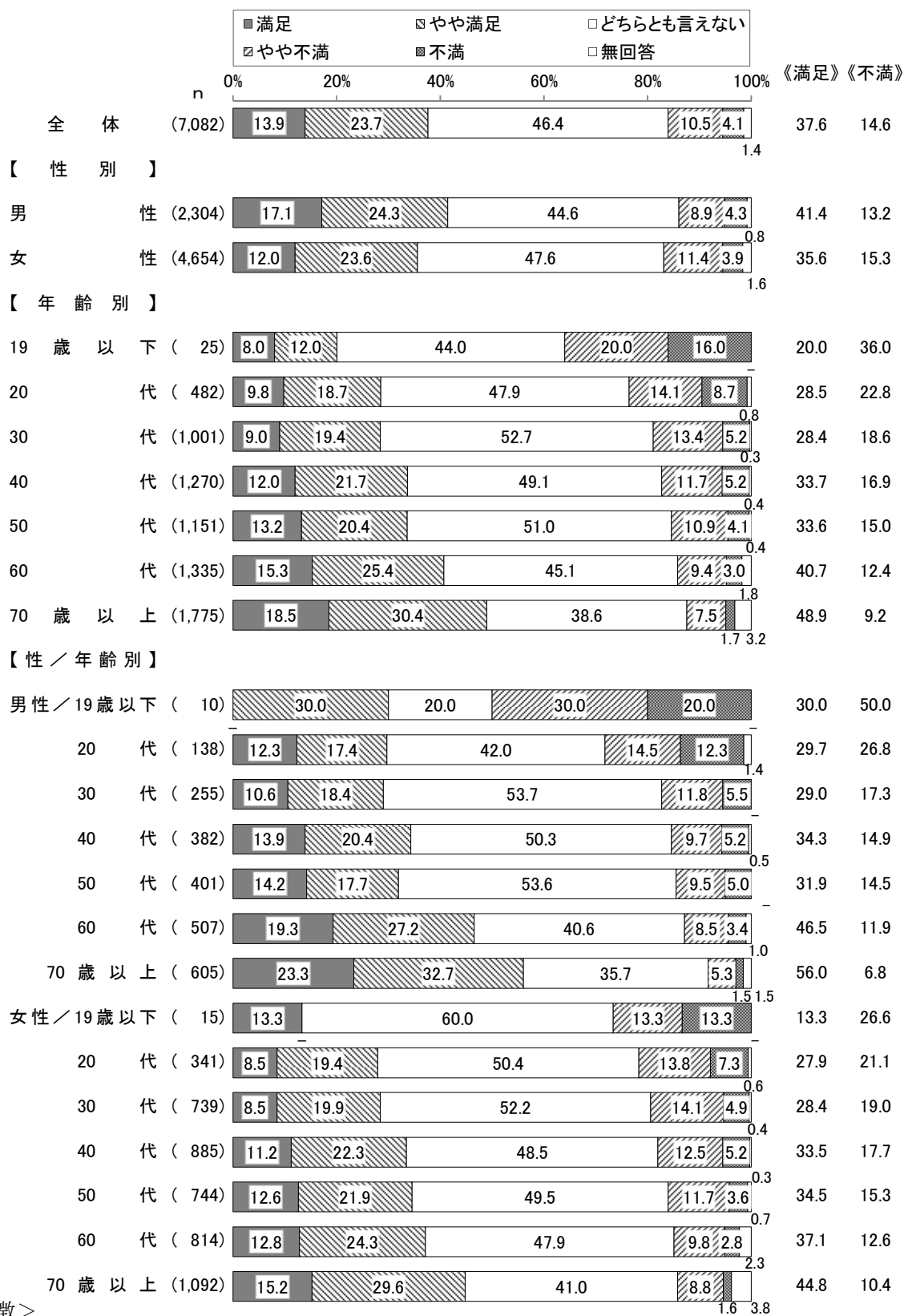
＜特徴＞

○性別では、《満足》は、男性（72.4%）の方が女性（63.9%）より8.5ポイント高くなっている。

○年齢別では、《満足》は、おおむね年齢が上がるにつれ割合が高くなり、70歳以上（73.4%）で最も高くなっている。

○性／年齢別では、《満足》は、男性の70歳以上（80.2%）で最も高くなっている。

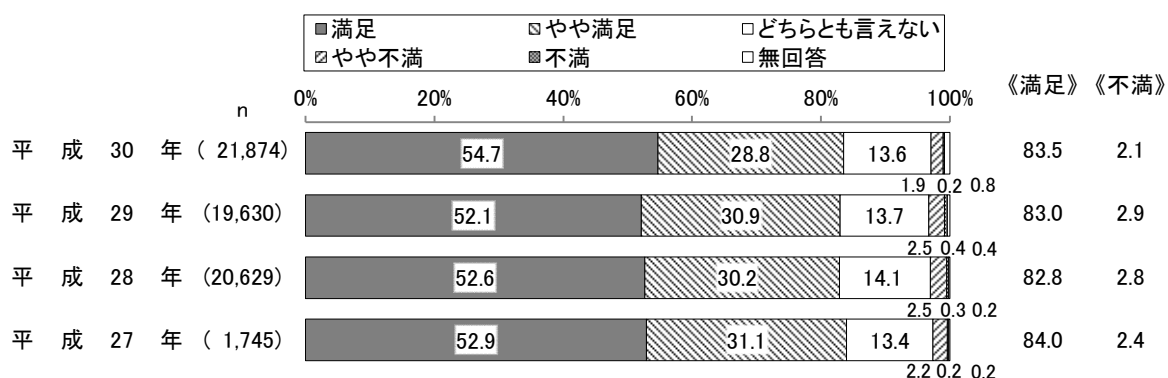
⑥ー3 「水道水は飲まず、ボトルウォーター（サーバー水等）を飲む」人の「飲み水としての水質の満足度」（属性別）〈図表2-2-11〉



<特徴>

- 性別では、《満足》は男性（41.4%）の方が女性（35.6%）より5.8ポイント高くなっている。
- 年齢別では、《満足》は70歳以上（48.9%）で最も高く、19歳以下（20.0%）で最も低くなっている。
- 性／年齢別では、《満足》は男性の70歳以上（56.0%）で5割台半ばと最も高くなっている。

⑥－４ 「そのまま飲む」人の「飲み水としての水質の満足度」(時系列)〈図表２－２－１２〉



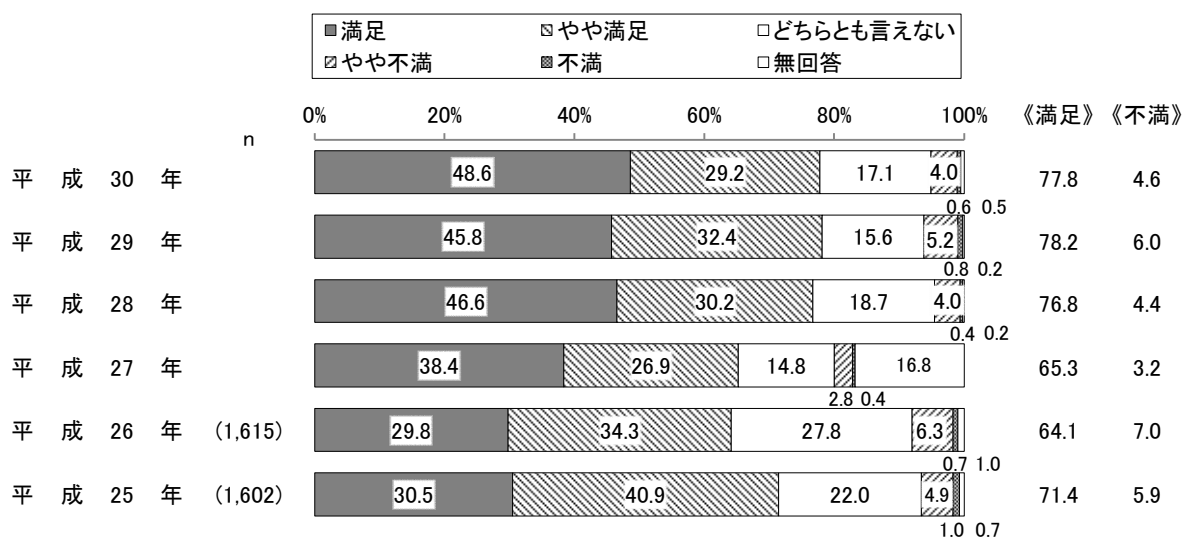
＜特徴＞

○前年度調査との比較では、特に大きな違いはみられない。

平成27年度から平成30年度までの4年間の傾向でも、特に大きな違いはなく、《満足》が8割台半ば近く、「どちらとも言えない」が1割台半ば近くで推移している。

参考

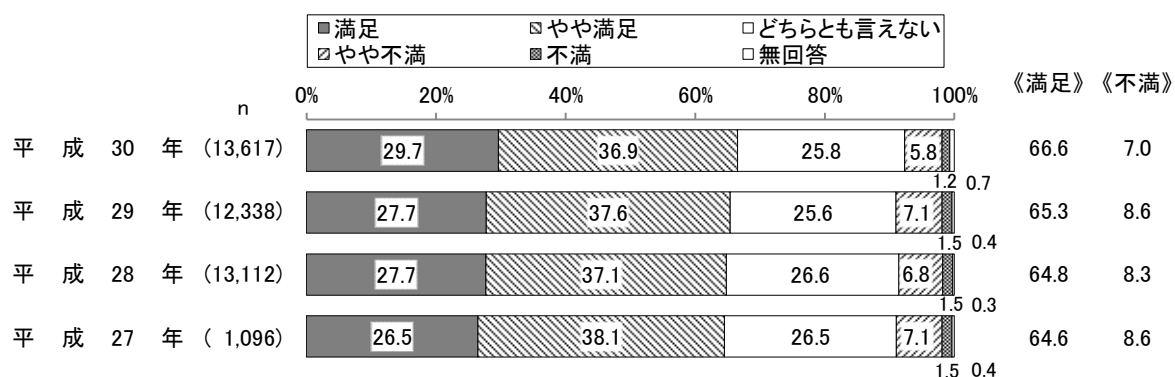
「そのまま飲む」人の「飲み水としての水質の満足度」(時系列)〈図表２－２－１３〉



＜特徴＞

○参考までにウェイトバック集計値で、今年度調査を見ると、「満足」が48.6%で最も高く、「やや満足」(29.2%)と合わせた《満足》は77.8%となっている。「どちらとも言えない」は17.1%となっている。

⑥ー５ 「浄水器を通して飲む」人の「飲み水としての水質の満足度」（時系列）〈図表２－２－１４〉

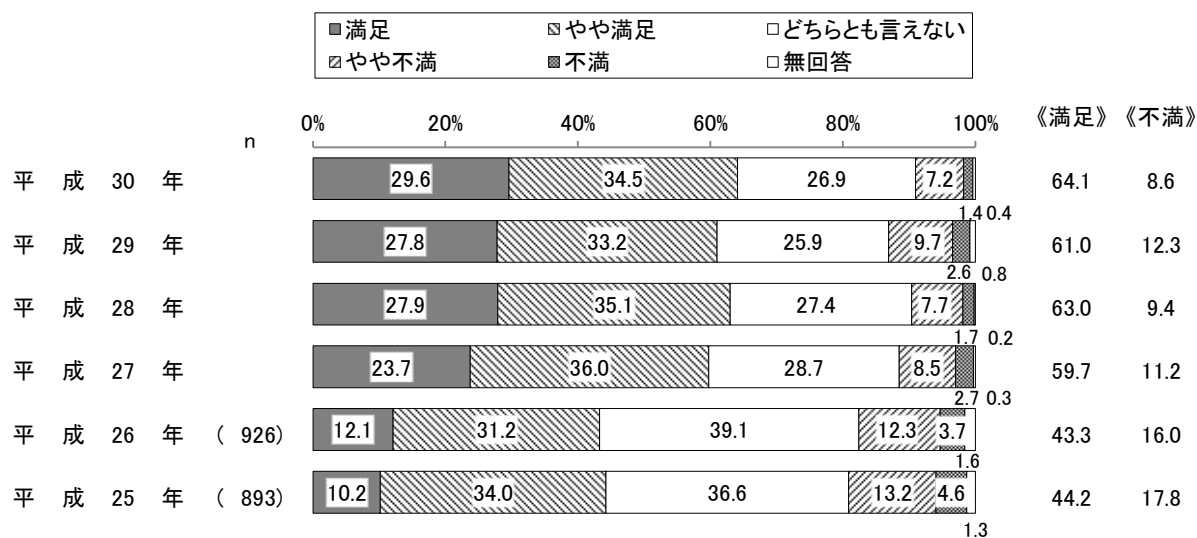


<特徴>

○前年度調査との比較では、特に大きな違いはみられない。

平成27年度から平成30年度までの4年間の傾向でも、特に大きな違いはなく、《満足》が6割台半ば、「どちらとも言えない」が2割台半ばで推移している。

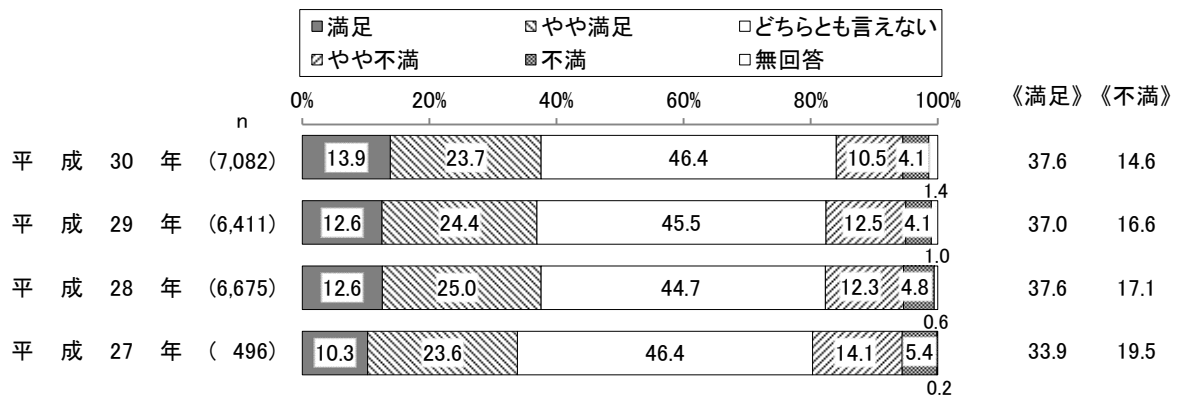
参考 「浄水器を通して飲む」人の「飲み水としての水質の満足度」（時系列）〈図表２－２－１５〉



<特徴>

○参考までにウェイトバック集計値で、今年度調査を見ると、「やや満足」が34.5%で最も高く、「満足」（29.6%）と合わせた《満足》は64.1%となっている。「どちらとも言えない」は26.9%となっている。

⑥ー6 「水道水は飲まず、ボトルウォーター（サーバー水等）を飲む」人の「飲み水としての水質の満足度」（時系列）〈図表2-2-16〉



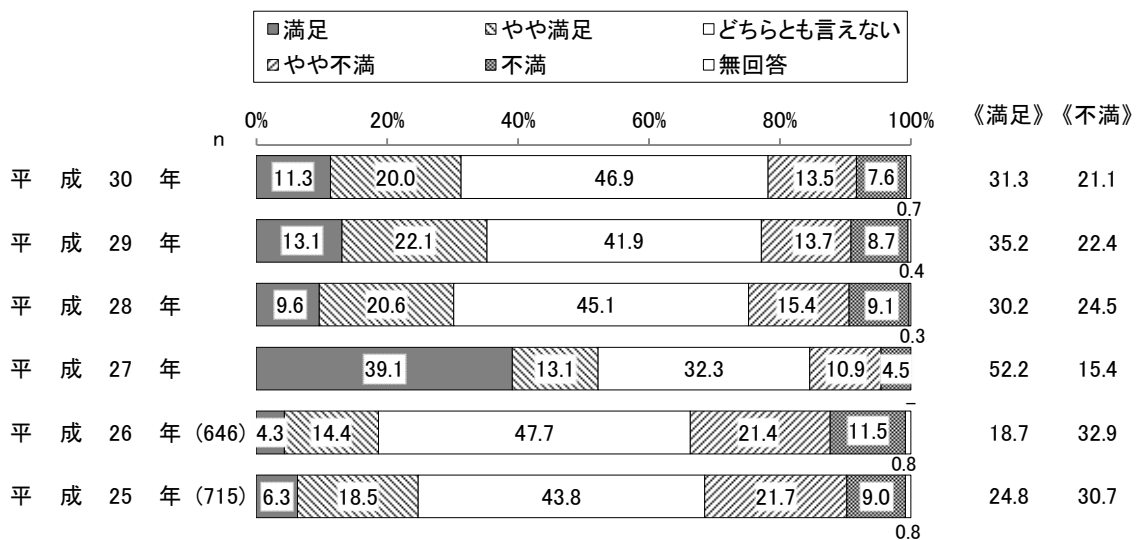
＜特徴＞

○前年度調査との比較では、特に大きな違いはみられない。

平成27年度から平成30年度までの4年間で《満足》の変化でみると、平成30年度（37.6%）は平成27年度（33.9%）から3.7ポイント増加し、《不満》は平成30年度（14.6%）は平成27年度（19.5%）から4.9ポイント減少している。

参考

「水道水は飲まず、ボトルウォーター（サーバー水等）を飲む」人の「飲み水としての水質の満足度」（時系列）〈図表2-2-17〉

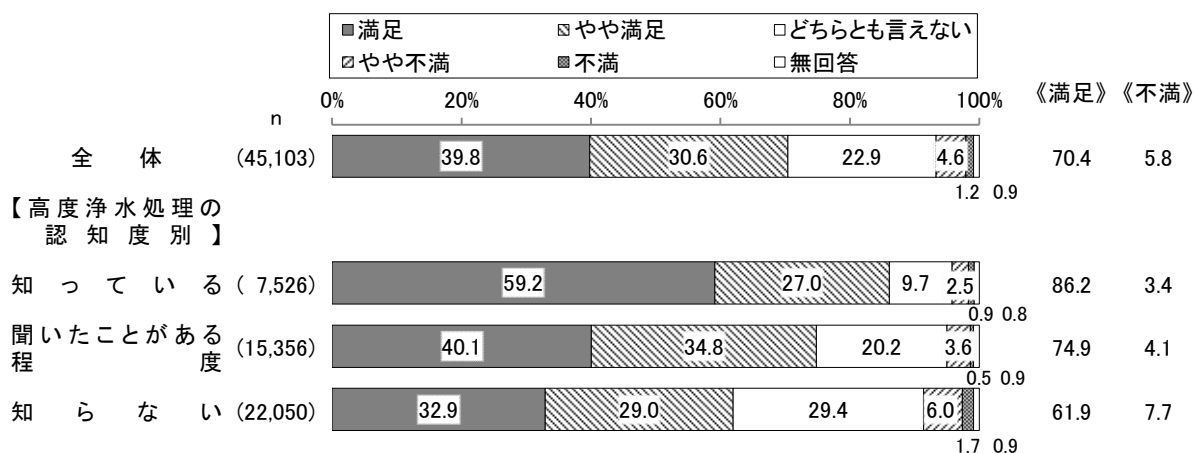


＜特徴＞

○参考までにウェイトバック集計値で、今年度調査を見ると、「どちらとも言えない」が46.9%で最も高くなっている。次いで「やや満足」（20.0%）となっており、「満足」（11.3%）を合わせた《満足》は31.3%となっている。

[詳細分析] (分析の軸はA票の設問)

⑦ 飲み水としての水質の満足度 (高度浄水処理の認知度別) (図表 2-2-18)



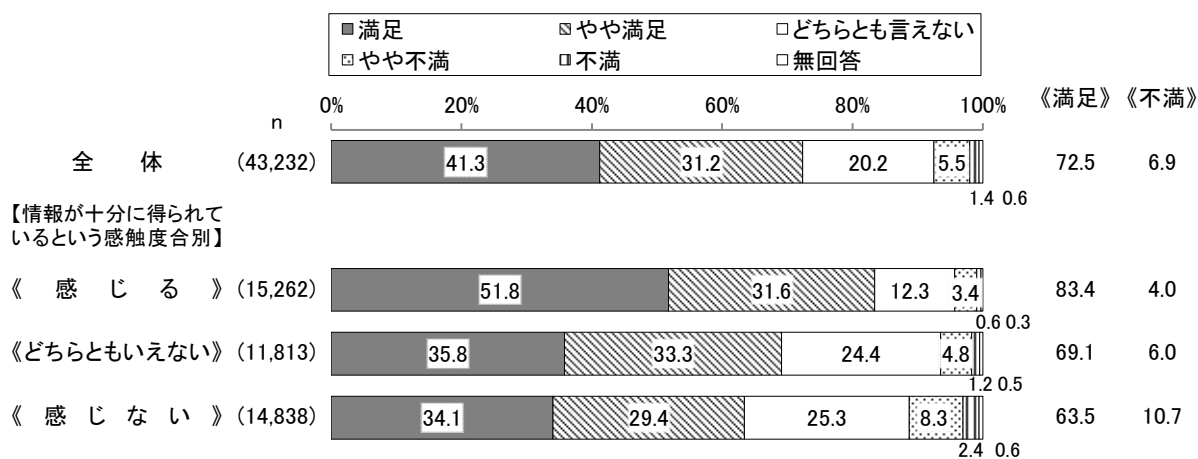
<特徴>

○高度浄水処理の認知度別では、《満足》は、高度浄水処理を知っている人 (86.2%) で最も高くなっている。

[詳細分析] (分析の軸はB票の設問)

⑧ 飲み水としての水質の満足度 (情報が十分に得られているという感触度合別)

(図表 2-2-19)

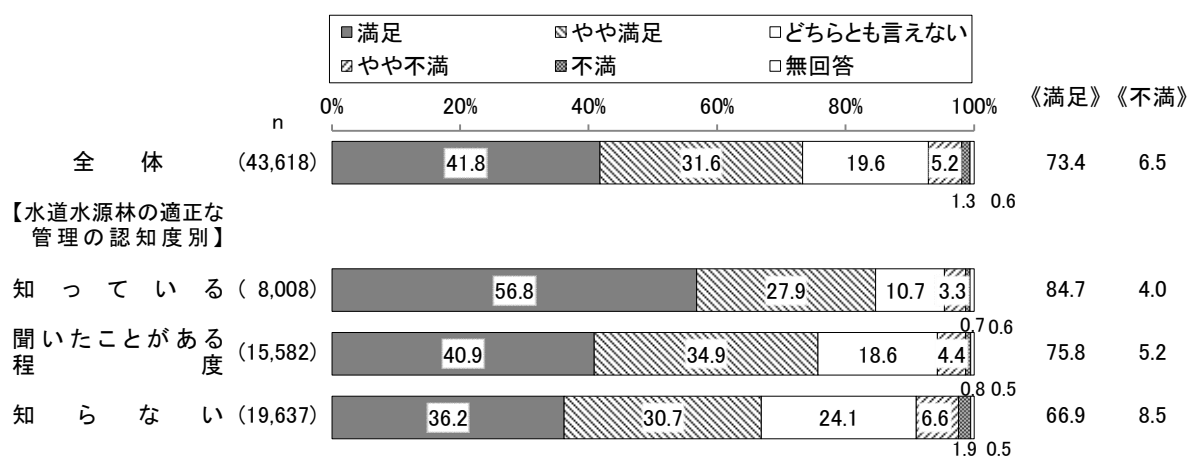


<特徴>

○情報が十分に得られているという感触度合別では、《満足》は、感触を感じる人 (83.4%) で最も高くなっている。一方、《不満》は、感じない人 (10.7%) で最も高くなっている。

[詳細分析] (分析の軸はC票の設問)

⑨ 飲み水としての水質の満足度 (水道水源林の適正な管理の認知度別) (図表 2-2-20)



<特徴>

○水道水源林の適正な管理の認知度別では、《満足》は、適正な管理を知っている人 (84.7%) で最も高くなっている。一方、《不満》は、知らない人 (8.5%) で最も高くなっている。

(2) 飲み水としての水道水を不満と思う要因

問 〈前問で「4」または「5」と回答した方のみにお尋ねします。〉

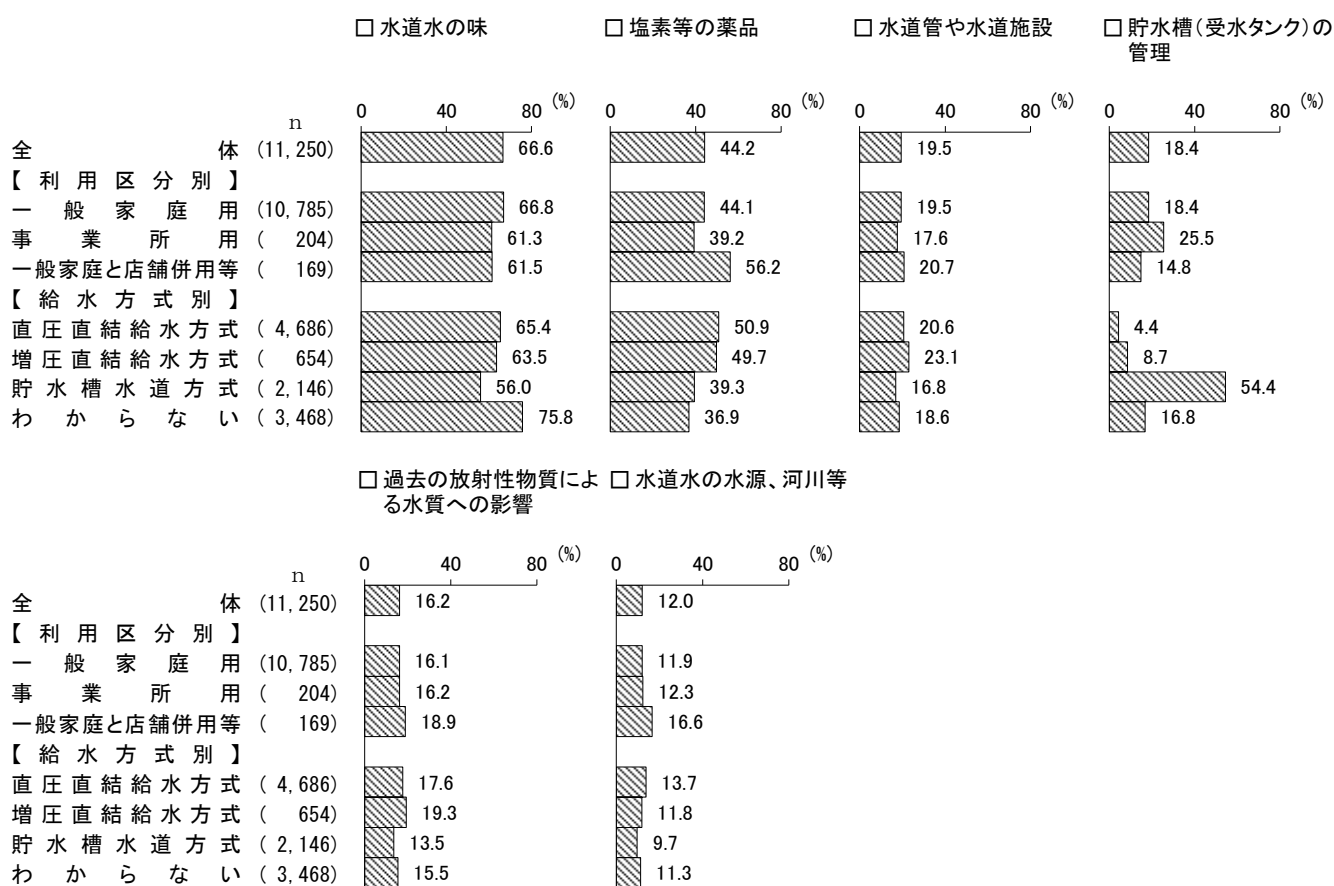
飲み水としての水道水を不満と思う要因は何ですか。(複数回答可)

- | | |
|----------------------|------------------|
| 1) 水道水の水源、河川等 | 2) 塩素等の薬品 |
| 3) 水道管や水道施設 | 4) 貯水槽(受水タンク)の管理 |
| 5) 過去の放射性物質による水質への影響 | 6) 水道水の味 |

〔A : 問8、B : 問7、C : 問7、D : 問8〕

〔調査結果〕

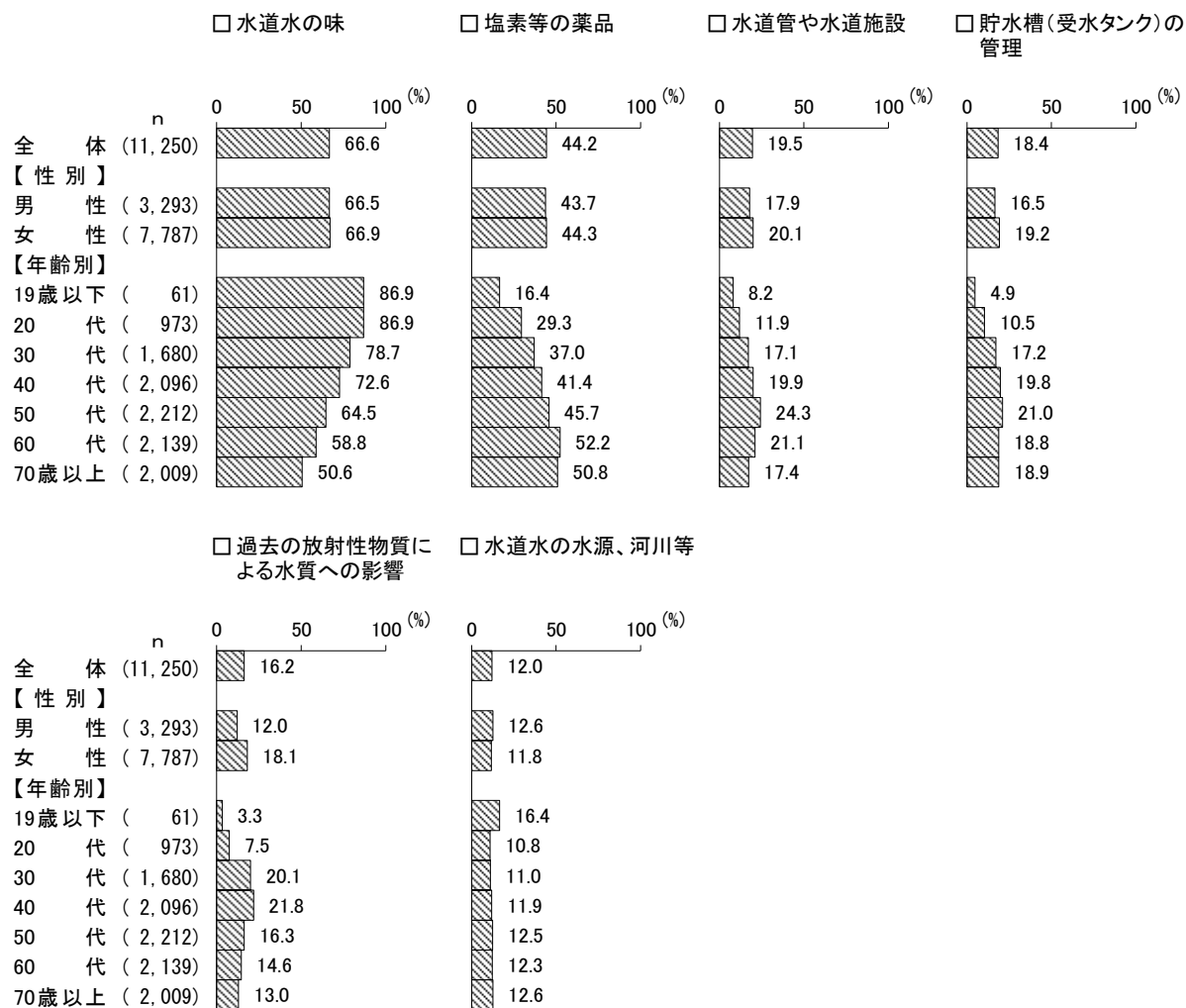
① 飲み水としての水道水を不満と思う要因(利用区分別、給水方式別)〈図表2-2-2-1〉



＜特徴＞

- 全体でみると、「水道水の味」が66.6%で最も高くなっている。以下「塩素等の薬品」(44.2%)、「水道管や水道施設」(19.5%)、「貯水槽(受水タンク)の管理」(18.4%)、「過去の放射性物質による水質への影響」(16.2%)、「水道水の水源、河川等」(12.0%)となっている。
- 利用区分別では、「水道水の味」は、一般家庭用で66.8%と最も高くなっている。「塩素等の薬品」は、一般家庭と店舗併用等で56.2%と最も高く、「水道管や水道施設」でも20.7%と高くなっている。「貯水槽(受水タンク)の管理」は事業所用が25.5%と最も高くなっている。
- 給水方式別では、「貯水槽(受水タンク)の管理」は、貯水槽水道方式で54.4%と最も高くなっている。

② 飲み水としての水道水を不満と思う要因（性別、年齢別）〈図表 2-2-22〉



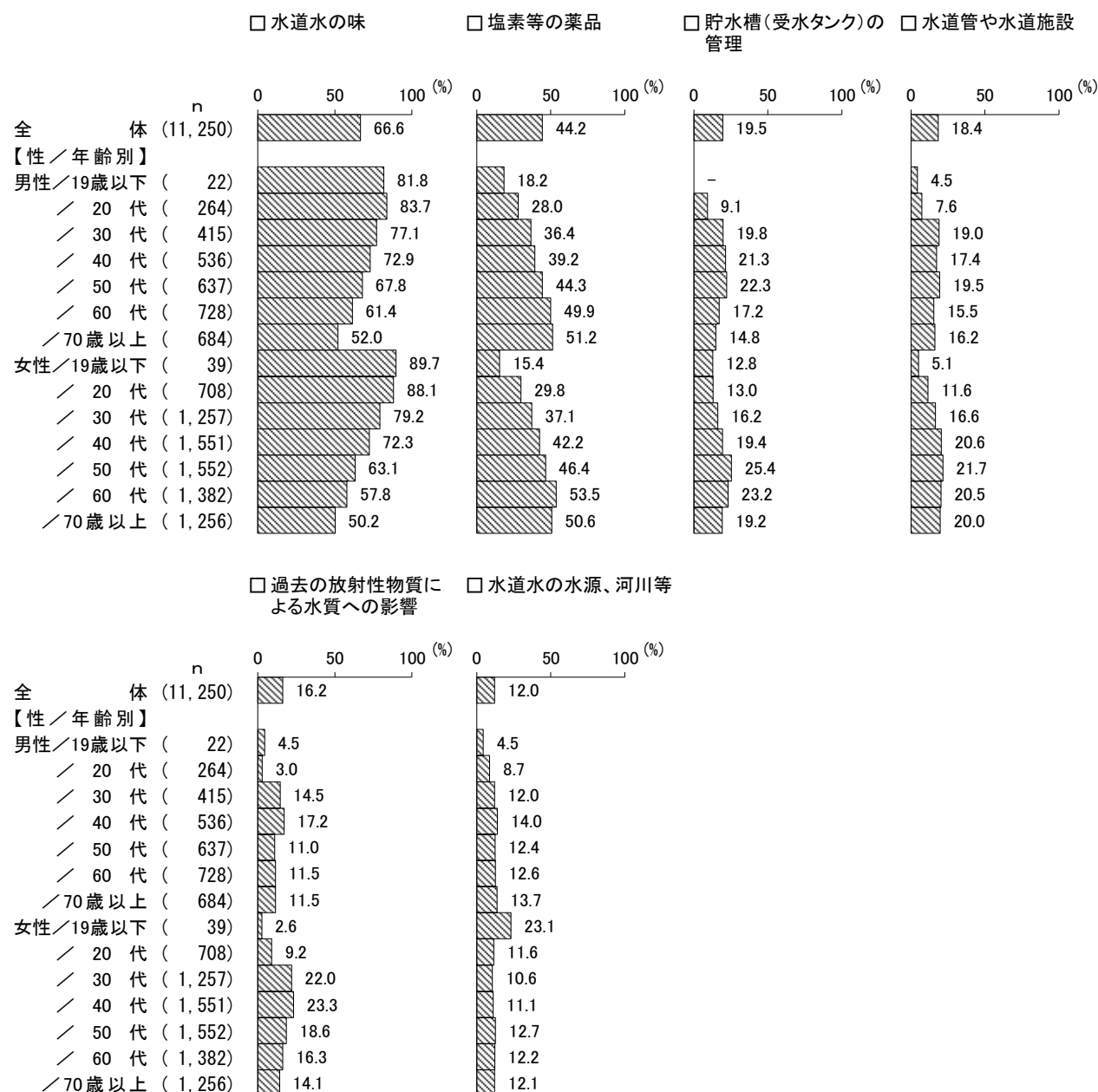
<特徴>

○性別では、「過去の放射性物質による水質への影響」で違いが最も大きく、女性（18.1%）の方が男性（12.0%）より6.1ポイント高くなっている。

○年齢別では、「水道水の味」は19歳以下と20代（86.9%）で最も高く、年齢が上がるにつれて割合は低くなり70歳以上では50.6%となっている。一方、「塩素等の薬品」は、19歳以下（16.4%）で最も低く、おおむね年齢が上がるにつれて割合は高くなっている。

また、「水道管や水道施設」と「貯水槽（受水タンク）の管理」は、50代（24.3%・21.0%）で最も高く、「過去の放射性物質による水質への影響」は40代（21.8%）で最も高くなっている。

③ 飲み水としての水道水を不満と思う要因（性／年齢別）〈図表 2－2－23〉

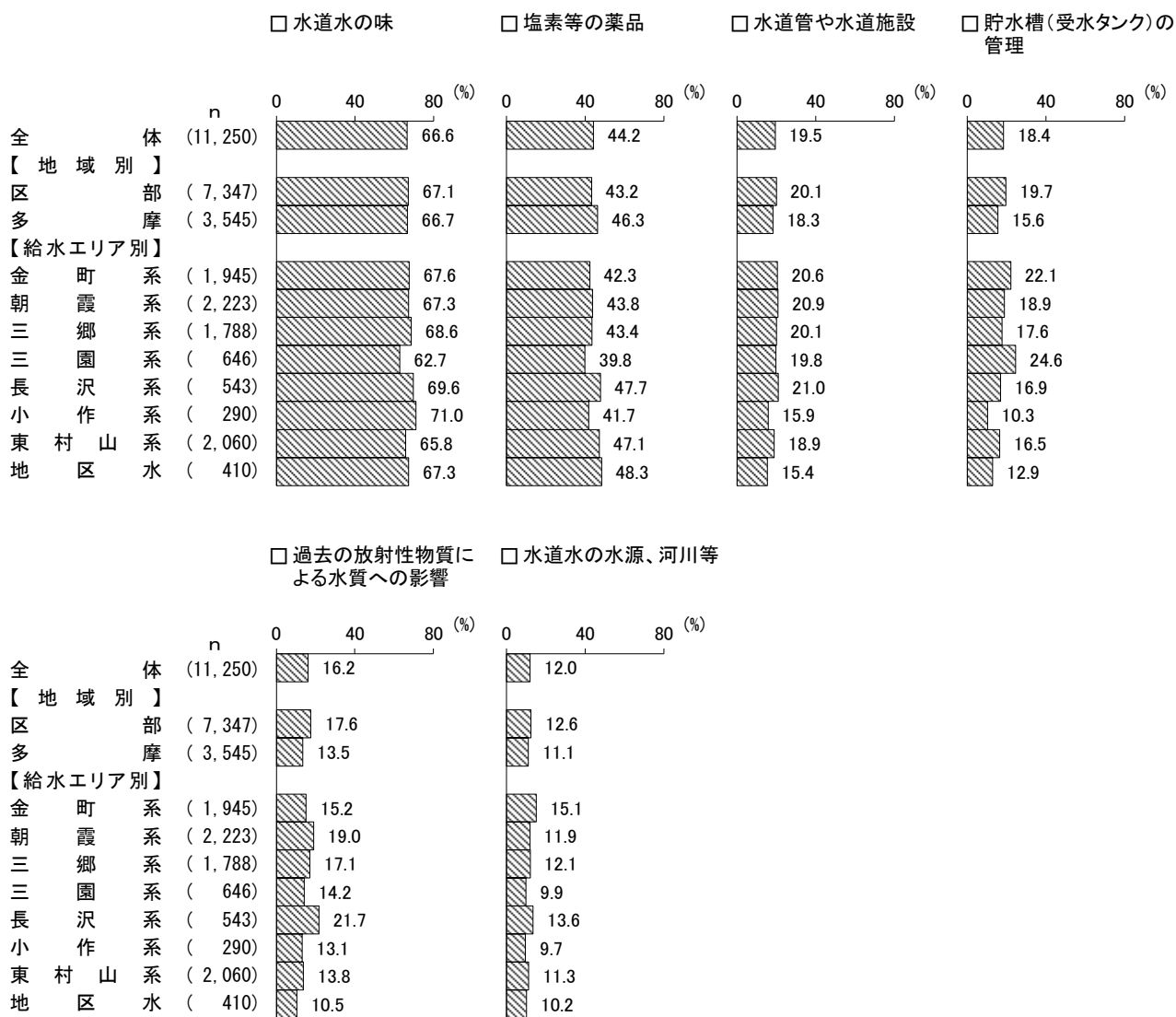


<特徴>

○性／年齢別では、「水道水の味」は、女性の19歳以下（89.7%）で最も高く、男女ともに年齢が上がるにつれて割合は低くなる。逆に、「塩素等の薬品」は、男女ともにおおむね年齢が上がるにつれて割合は高くなり、男性は70歳以上（51.2%）、女性は60代（53.5%）、70歳以上（50.6%）で5割台と高くなっている。

また、「貯水槽（受水タンク）の管理」は、女性の50代（25.4%）で最も高く、「過去の放射性物質による水質への影響」は、女性の40代（23.3%）で最も高くなっている。

④ 飲み水としての水道水を不満と思う要因（地域別、給水エリア別）〈図表２－２－２４〉



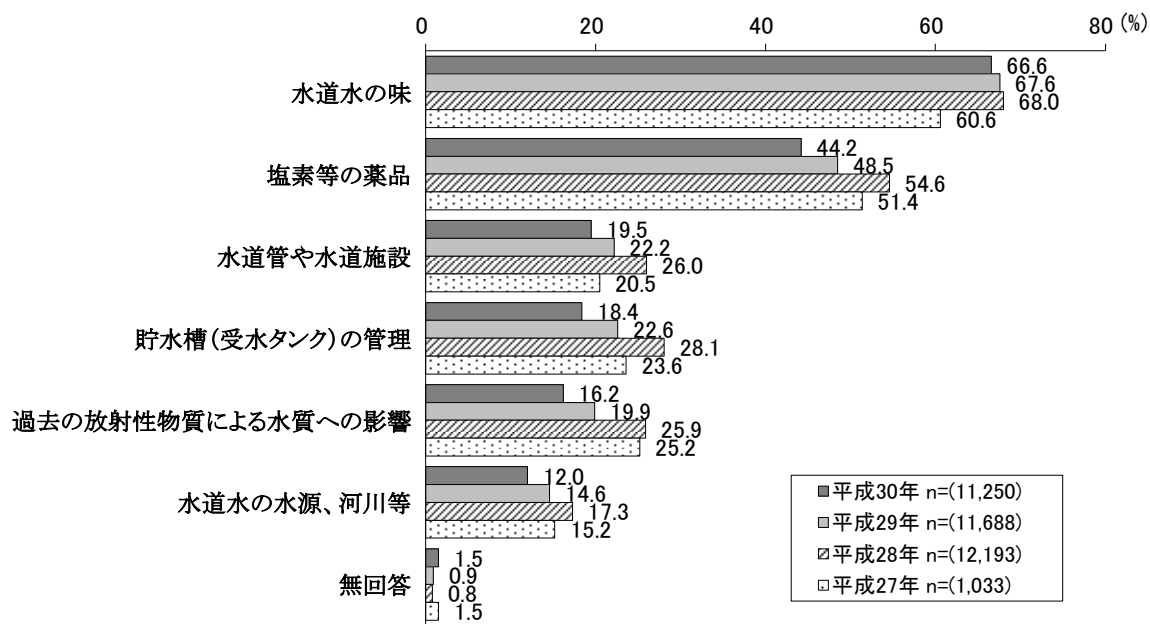
<特徴>

○地域別では、区部と多摩で「貯水槽（受水タンク）の管理」（区部19.7%：多摩15.6%）と「過去の放射性物質による水質への影響」（区部17.6%：多摩13.5%）での違いが最も大きく、ともに区部の方が多摩より4.1ポイント高くなっている。逆に、「塩素等の薬品」では多摩（46.3%）の方が区部（43.2%）より3.1ポイント高くなっている。

○給水エリア別では、「水道水の味」は、小作系（71.0%）で最も高く、次いで長沢系（69.6%）となっている。「塩素等の薬品」は、地区水（48.3%）で最も高く、次いで長沢系（47.7%）となっている。

また、「水道管や水道施設」は長沢系（21.0%）、「貯水槽（受水タンク）の管理」は三園系（24.6%）、「過去の放射性物質による水質への影響」は長沢系（21.7%）が最も高くなっている。

⑤ 飲み水としての水道水を不満と思う要因（時系列）〈図表２－２－２５〉



<特徴>

○前年度調査との比較では、全ての項目で前年度調査に比べて今回調査が減少しており、特に「塩素等の薬品」は今回調査（44.2%）が前年度調査（48.5%）から4.3ポイント減少している。

また、「貯水槽（受水タンク）の管理」でも今回調査（18.4%）は、前年度調査（22.6%）から4.2ポイント減少している。

平成27年度から平成30年度までの4年間の傾向では、平成27年度から平成28年度ではすべての項目で割合が増加したが、平成28年度から平成30年度にかけてはすべての項目で割合が減少している。

(3) 調理に使用する水としての水質の満足度

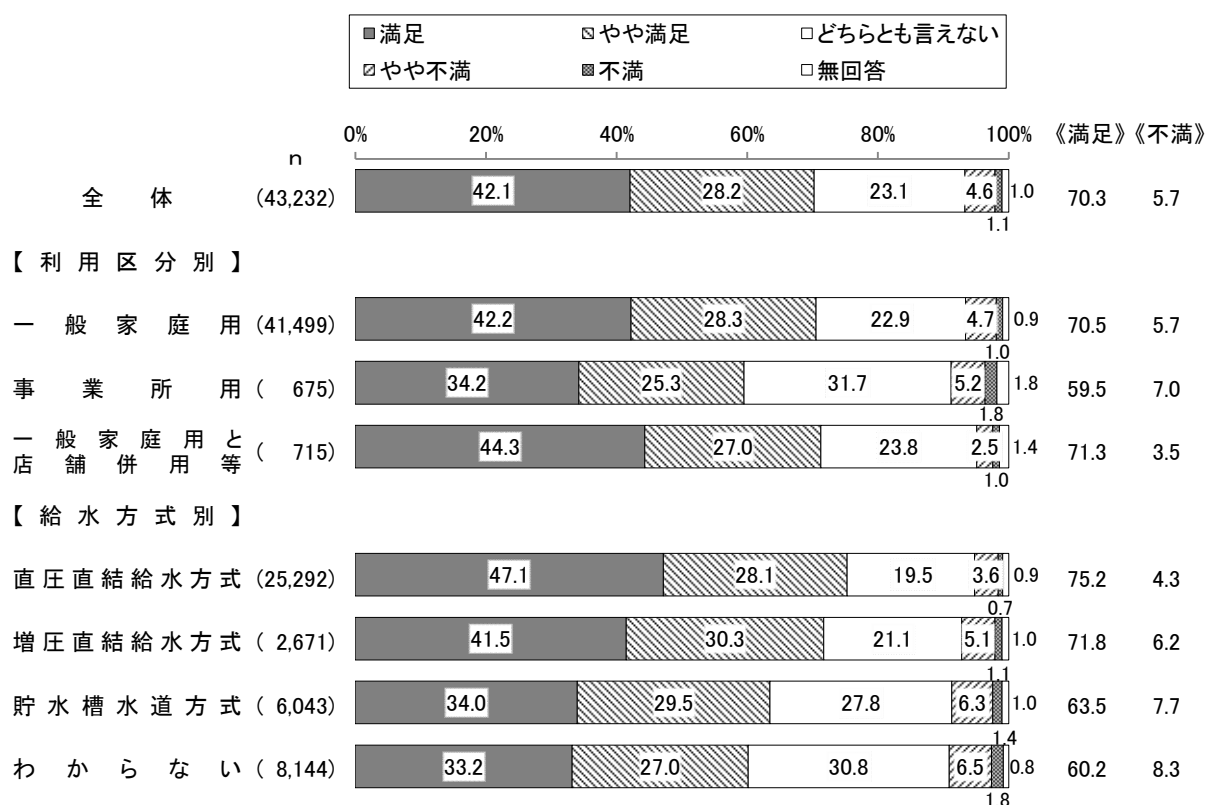
問 東京の水道水を調理に使用する場合、水質をどのように感じますか。

1) 満足 2) やや満足 3) どちらとも言えない 4) やや不満 5) 不満

〔B：問9〕

〔調査結果〕

① 調理に使用する水としての水質の満足度（給水方式別）〈図表2-2-26〉



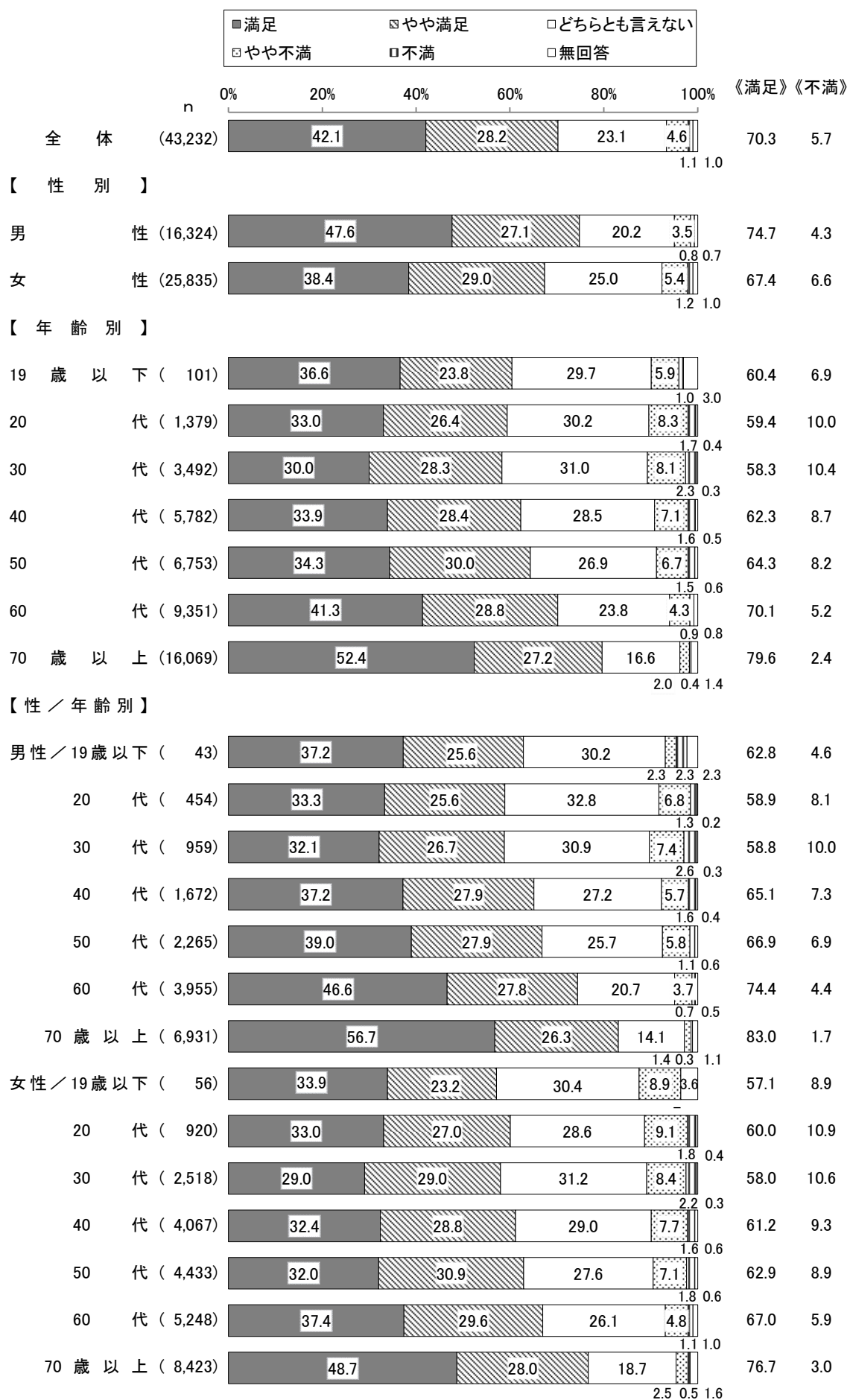
＜特徴＞

○全体でみると、「満足」が42.1%と最も高く、「やや満足」(28.2%)を合わせた《満足》は70.3%となっている。一方、《不満》は5.7%となっている。

○利用区分別では、《満足》は、一般家庭用と店舗併用等で71.3%と最も高くなっている。

○給水方式別では、《満足》は、直圧直結給水方式で75.2%と最も高くなっている。

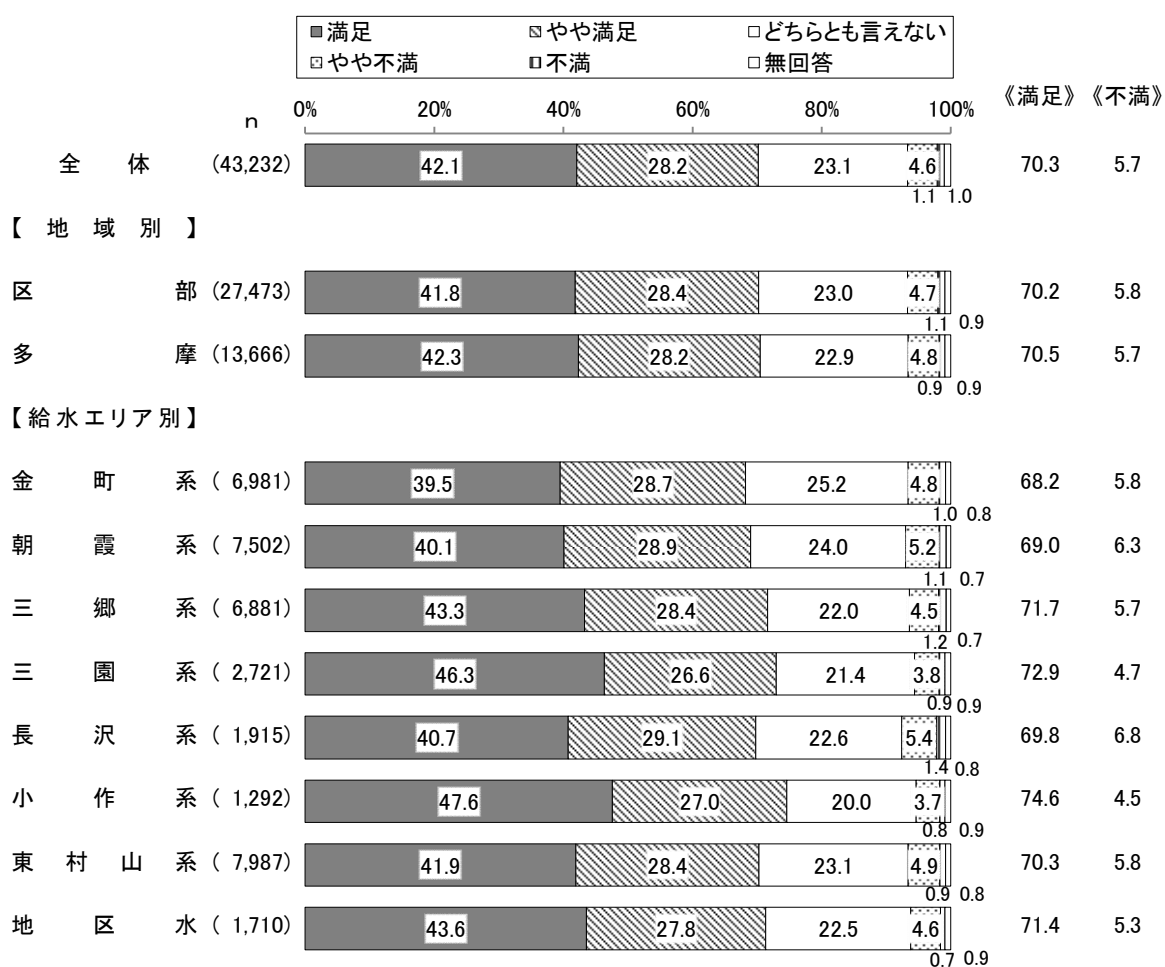
② 調理に使用する水としての水質の満足度（属性別）〈図表２－２－２７〉



<特徴>

- 性別では、「満足」は、男性（47.6％）の方が女性（38.4％）より9.2ポイント高く、《満足》でも、男性（74.7％）の方が女性（67.4％）より7.3ポイント高くなっている。
- 年齢別では、《満足》は、20代から30代までは6割前後となっているが、40代以上からは年齢が上がるにつれて高くなり、70歳以上（79.6％）で最も高い割合となっている。
- 性／年齢別では、男女ともに20代から30代まで割合は大きく変わらないが、40代から年齢が上がるにつれて割合が高くなっている。《満足》は、女性の19歳以下（57.1％）で最も低く、男性の70歳以上（83.0％）で最も高い割合となっている。

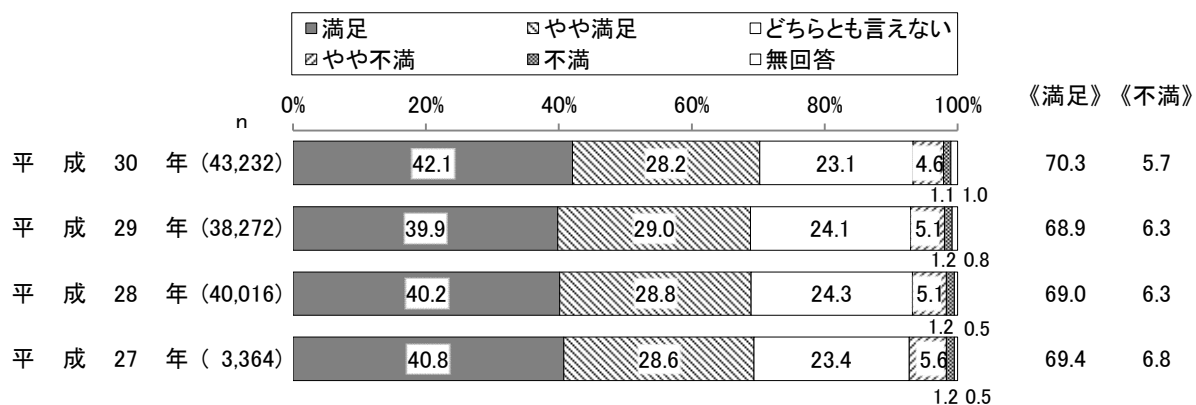
③ 調理に使用する水としての水質の満足度（地区別、給水エリア別）〈図表2-2-28〉



<特徴>

- 地域別では、区部と多摩の割合に特に大きな違いはみられない。
- 給水エリア別では、《満足》は、小作系（74.6％）で最も高く、次いで三園系（72.9％）となっている。

④ 調理に使用する水としての水質の満足度（時系列：全体）〈図表 2－2－29〉



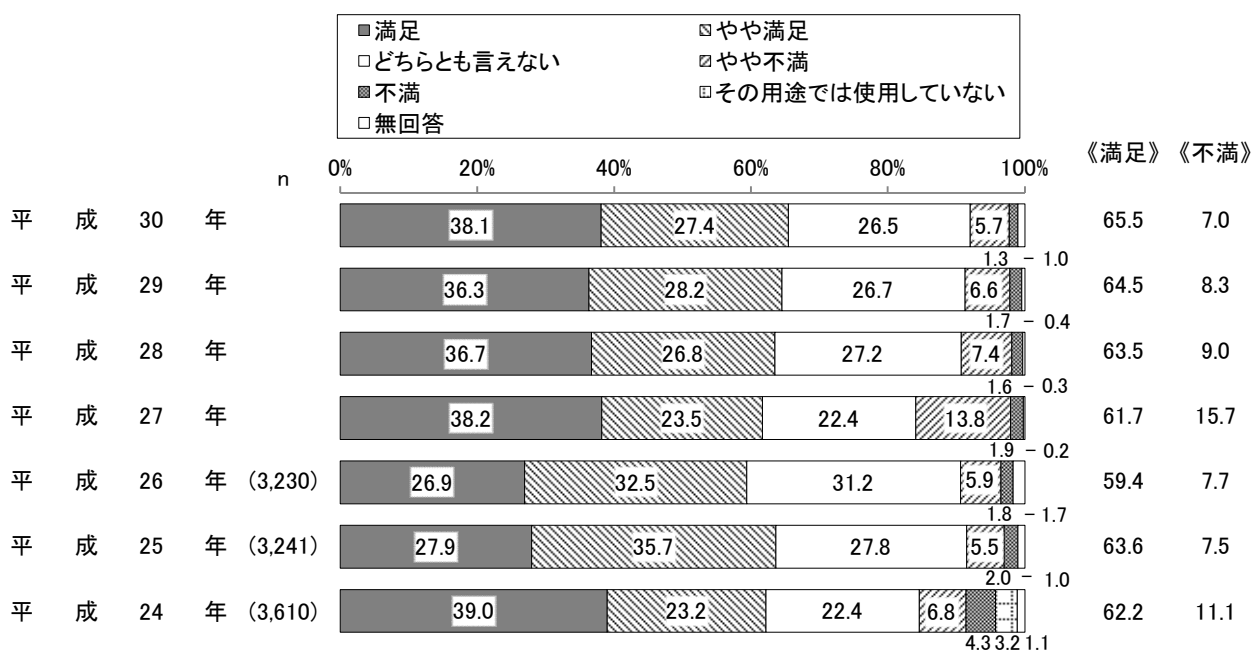
＜特徴＞

○前年度調査との比較では、特に大きな違いはみられない。

平成27年度から平成30年度までの4年間の傾向でも、特に大きな違いはなく、《満足》が7割前後、「どちらとも言えない」が2割台半ば近くで推移している。

参考

調理に使用する水としての水質の満足度（時系列：全体）〈図表 2－2－30〉



＜特徴＞

○参考までにウェイトバック集計値で、今年度調査を全体で見ると、「満足」が38.1%で最も高く、「やや満足」(27.4%)を合わせた《満足》は65.5%となっている。「どちらとも言えない」は26.5%となっている。

(4) 洗面・風呂等としての水質の満足度

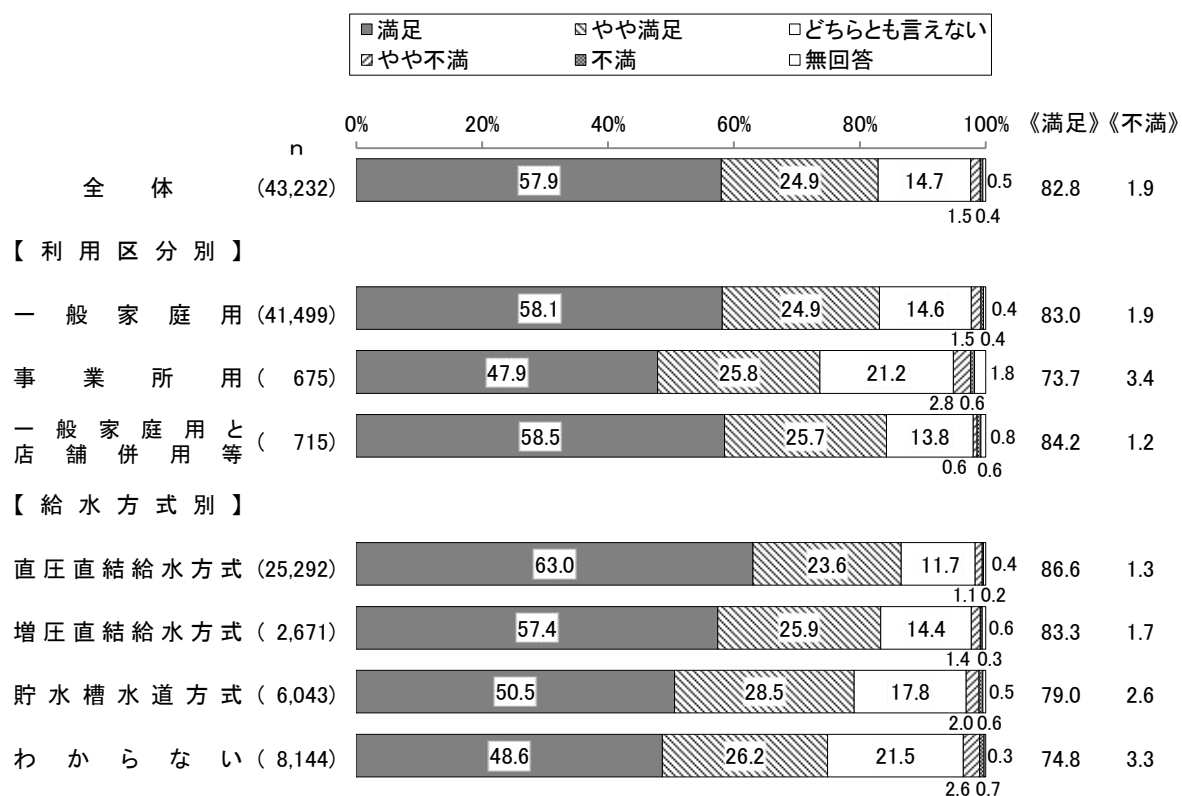
問 東京の水道水の洗面・風呂等としての水質をどのように感じますか。

1) 満足 2) やや満足 3) どちらとも言えない 4) やや不満 5) 不満

〔B：問10〕

〔調査結果〕

① 洗面・風呂等としての水質の満足度（給水方式別）〈図表2-2-31〉



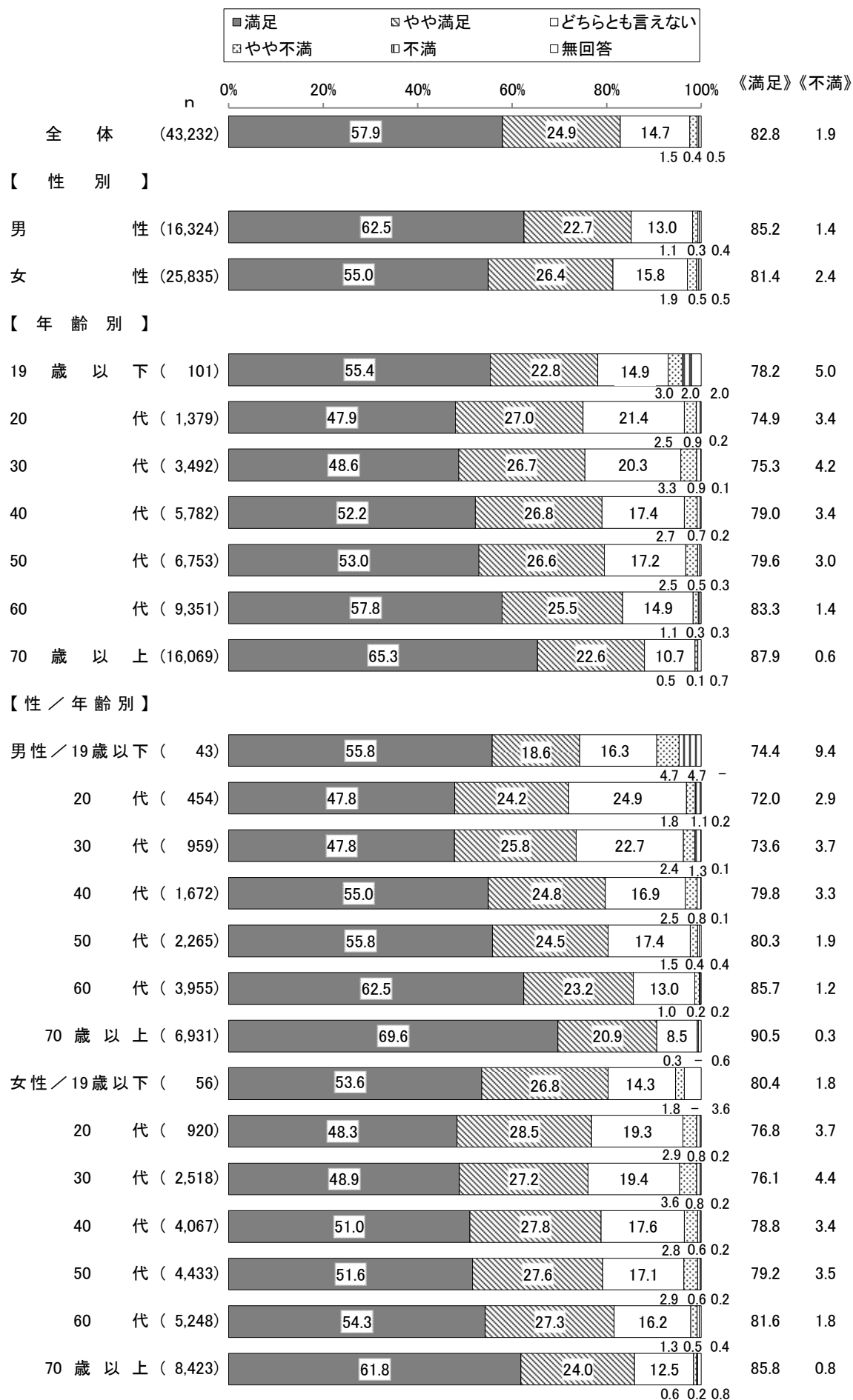
＜特徴＞

○全体でみると、「満足」が57.9%と最も高く、「やや満足」(24.9%)を合わせた《満足》は82.8%を占めており、《不満》は1.9%となっている。

○利用区分別では、《満足》は、一般家庭用と店舗併用等で84.2%と最も高くなっている。

○給水方式別では、《満足》は、直圧直結給水方式で86.6%と最も高くなっている。

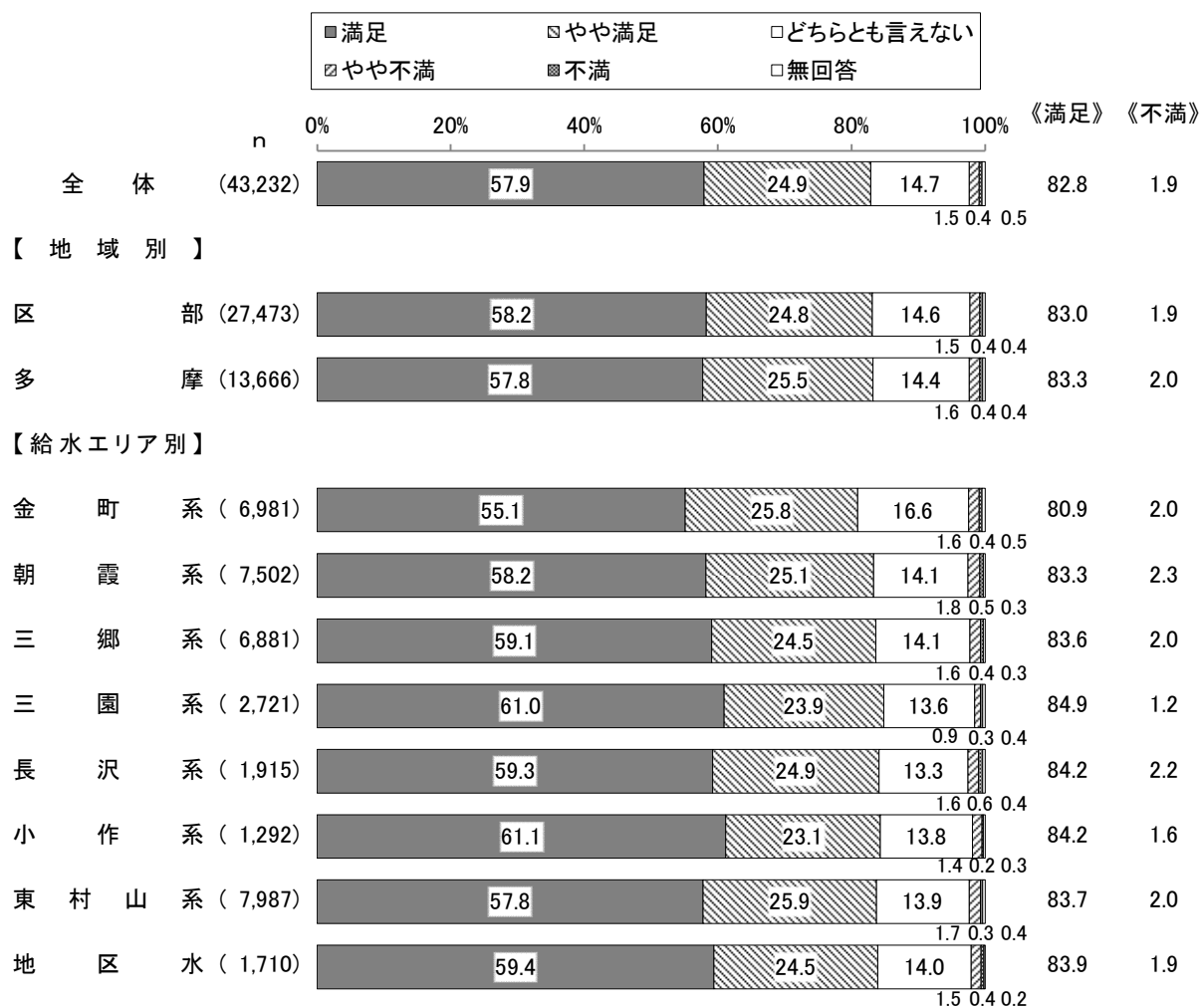
② 洗面・風呂等としての水質の満足度（属性別）〈図表 2－2－3 2〉



<特徴>

- 性別では、《満足》は、男性（85.2%）の方が女性（81.4%）より3.8ポイント高くなっている。
- 年齢別では、《満足》は、19歳以下（78.2%）から20代（74.9%）は低くなるが、30代以上からは年齢が上がるにつれ割合が高くなり、70歳以上（87.9%）で最も高くなっている。
- 性／年齢別でも、《満足》は男女ともに、おおむね19歳以下から20代と30代で低くなるが、40代から年齢が上がるにつれ割合が高くなり、男性の70歳以上（90.5%）で最も高くなっている。

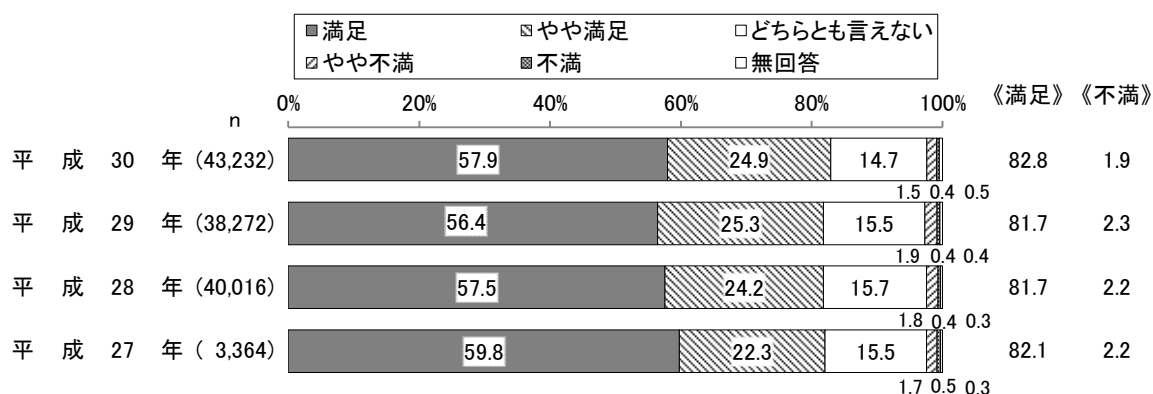
③ 洗面・風呂等としての水質の満足度（地区別、給水エリア別）〈図表2-2-33〉



<特徴>

- 地域別では、《満足》は区部と多摩の割合に特に大きな違いはみられない。
- 給水エリア別でも、《満足》の割合に特に大きな違いはみられない。

④ 洗面・風呂等としての水質の満足度（時系列：全体）〈図表２－２－３４〉



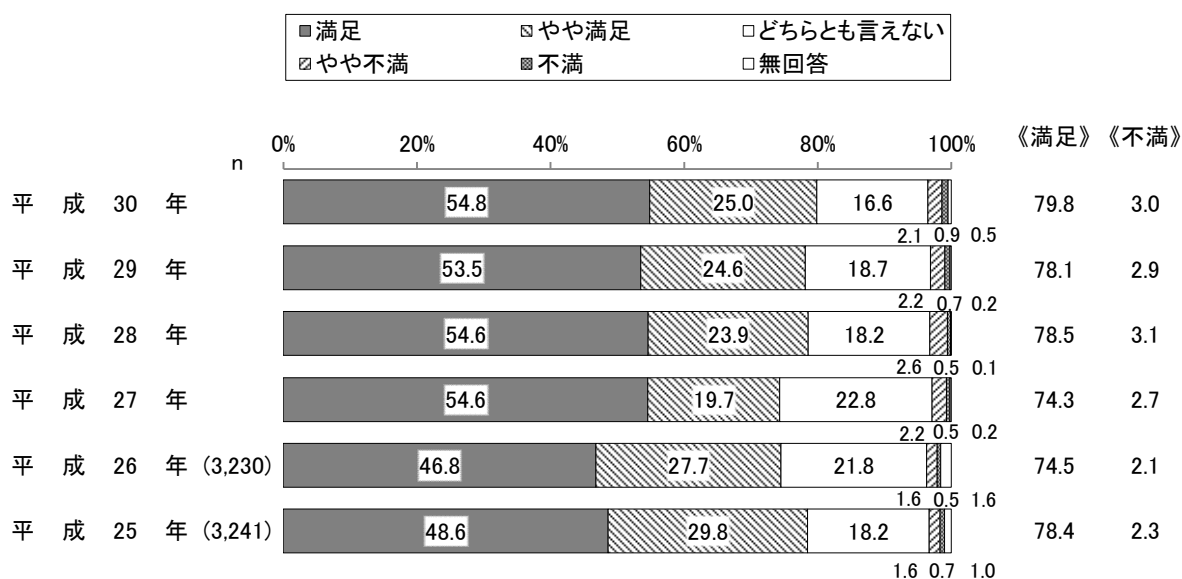
＜特徴＞

○前年度調査との比較では、特に大きな違いはみられない。

平成27年度から平成30年度までの4年間の傾向でも、特に大きな違いはなく、《満足》が8割強、「どちらとも言えない」が1割台半ばで推移している。

参考

洗面・風呂等としての水質の満足度（時系列：全体）〈図表２－２－３５〉



＜特徴＞

○参考までにウェイトバック集計値で、今年度調査を全体で見ると、《満足》は79.8%となっている。「どちらとも言えない」は16.6%となっている。

(5) 味（おいしさ）の満足度

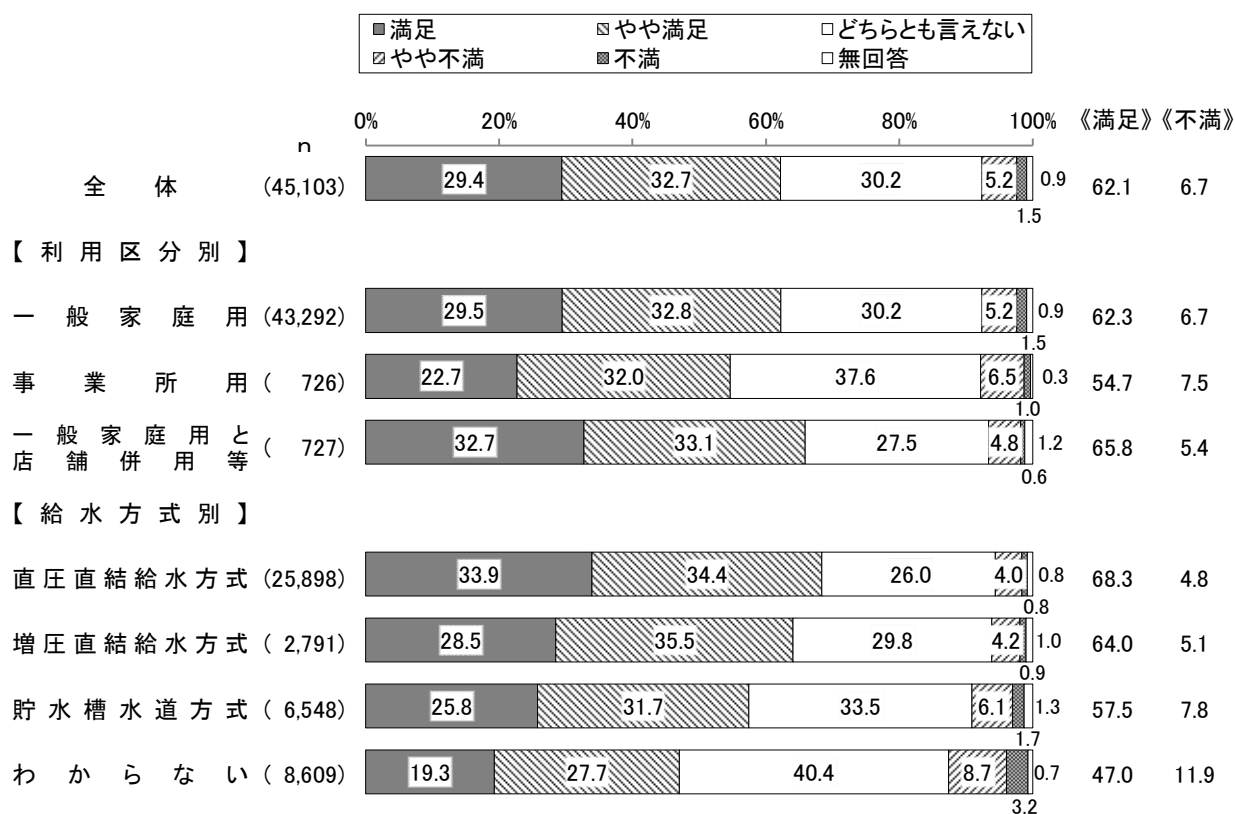
問 東京の水道水の味（おいしさ）を、どのように感じますか。

1) 満足 2) やや満足 3) どちらとも言えない 4) やや不満 5) 不満

〔A：問9〕

〔調査結果〕

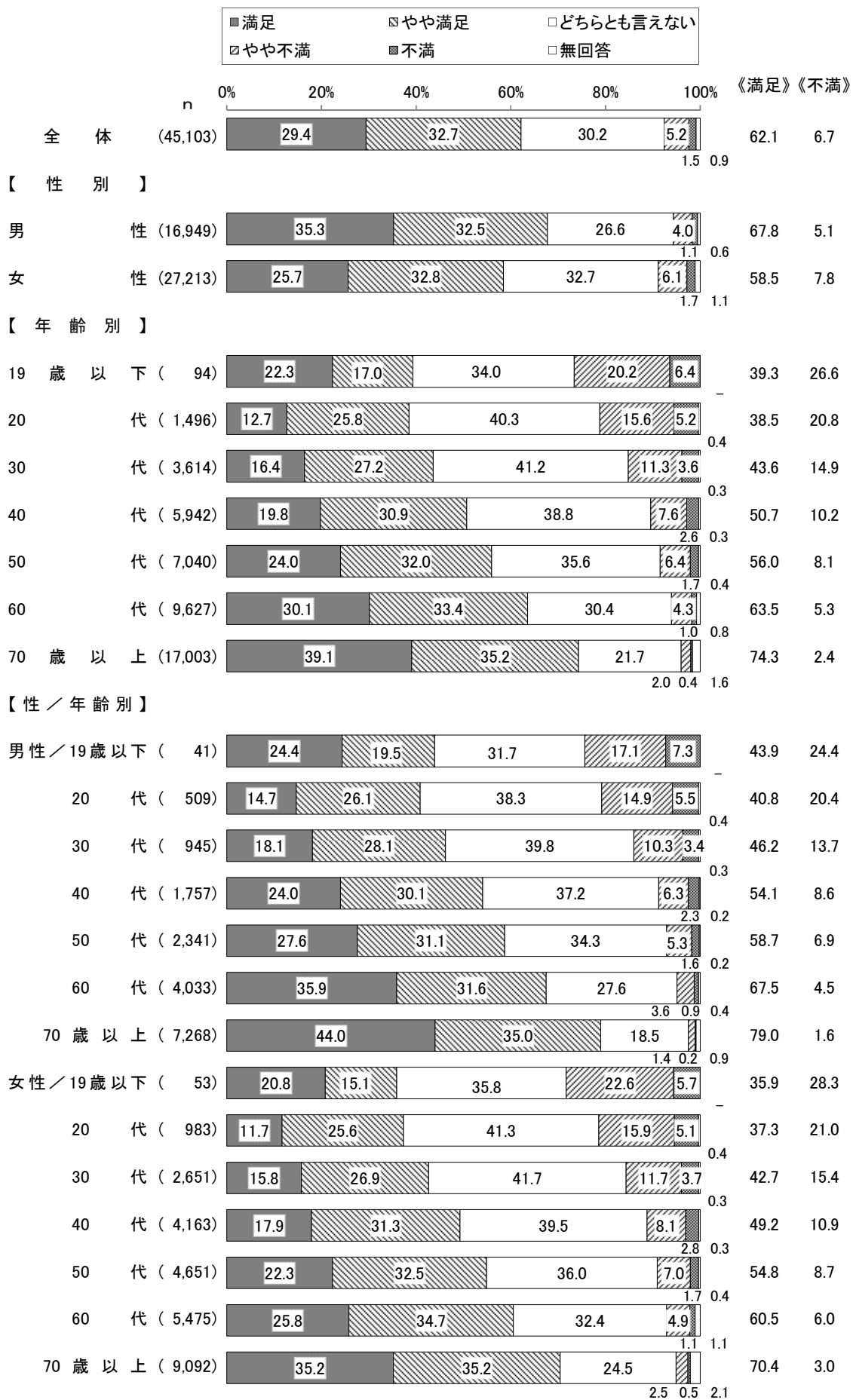
① 味（おいしさ）の満足度（給水方式別）〈図表2-2-36〉



<特徴>

- 全体でみると、「やや満足」が32.7%で最も高く、「満足」(29.4%)を合わせた《満足》は62.1%となっている。一方、《不満》は6.7%で、「どちらともいえない」は30.2%となっている。
- 利用区分別では、《満足》は、一般家庭用と店舗併用等が65.8%で最も高くなっている。
- 給水方式別では、《満足》は、直圧直結給水方式で68.3%と最も高くなっている。

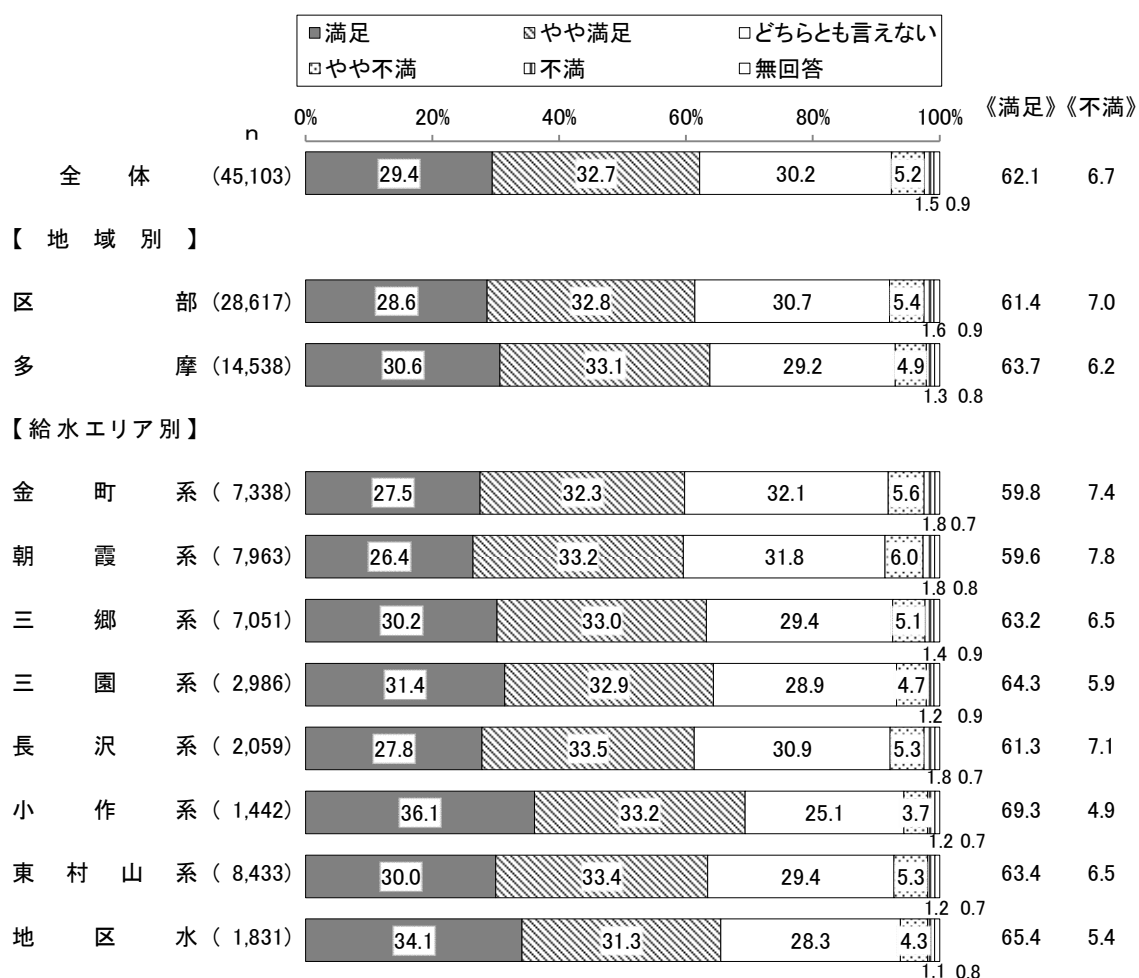
② 味（おいしさ）の満足度（属性別）〈図表 2-2-37〉



<特徴>

- 性別では、《満足》は、男性（67.8%）の方が女性（58.5%）より9.3ポイント高くなっている。
- 年齢別では、《満足》は、20代（38.5%）が最も低く、それ以降は年齢が上がるにつれ割合は高くなり、70歳以上（74.3%）で最も高くなっている。
- 性／年齢別では、《満足》は、男女ともに年齢が上がるにつれ割合が高くなっており、男性の70歳以上（79.0%）で最も高くなっている。

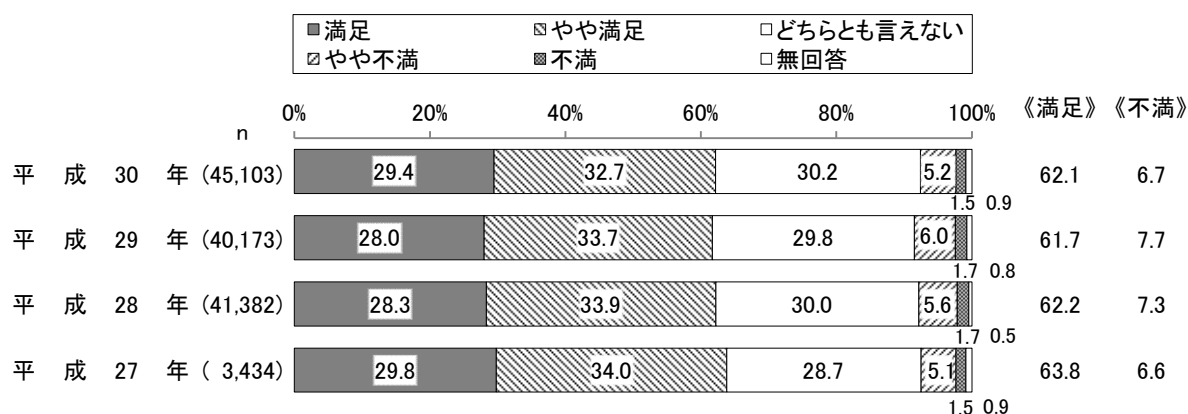
③ 味（おいしさ）の満足度（地区別、給水エリア別）〈図表2-2-38〉



<特徴>

- 地域別では、区部と多摩の割合に特に大きな違いはみられない。
- 給水エリア別では、《満足》は、小作系（69.3%）で7割弱と最も高くなっており、朝霞系（59.6%）と金町系（59.8%）で6割弱と低くなっている。

④ 味（おいしさ）の満足度（時系列：全体）〈図表 2－2－39〉



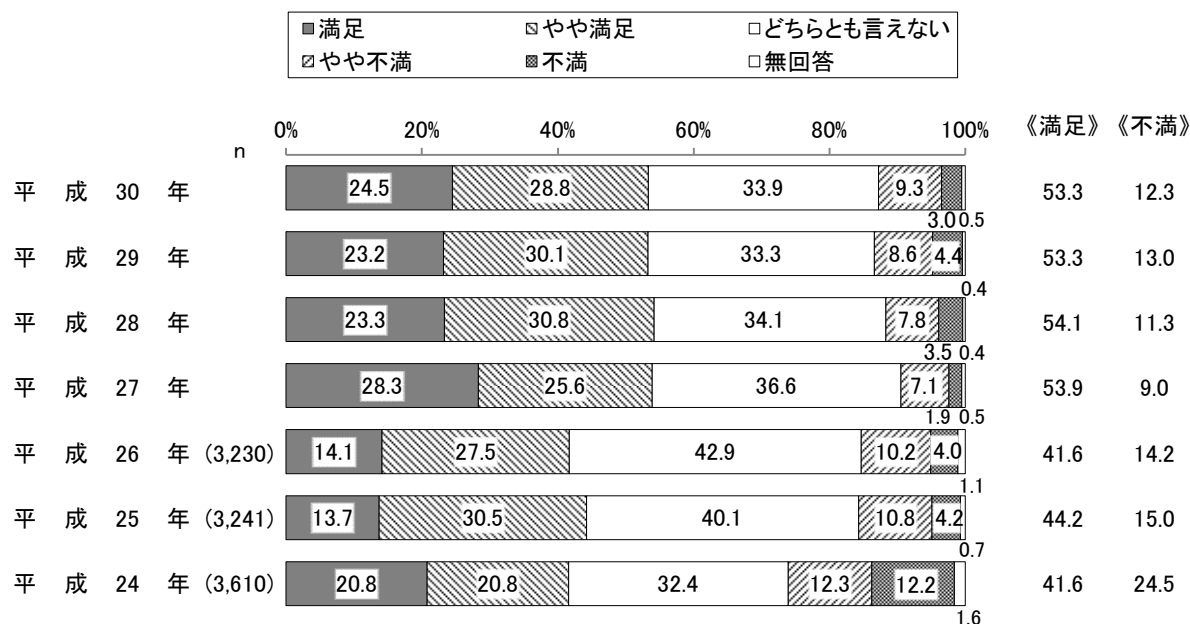
＜特徴＞

○前年度調査との比較では、特に大きな違いはみられない。

平成27年度から平成30年度までの4年間の傾向でも、特に大きな違いはなく、《満足》が6割強、「どちらとも言えない」が3割前後で推移している。

参考

味（おいしさ）の満足度（時系列：全体）〈図表 2－2－40〉



＜特徴＞

○参考までにウェイトバック集計値で、今年度調査を全体で見ると、《満足》は53.3%となっている。「どちらとも言えない」は33.9%となっている。

(6) におい（カルキ臭・かび臭等）の少なさの満足度

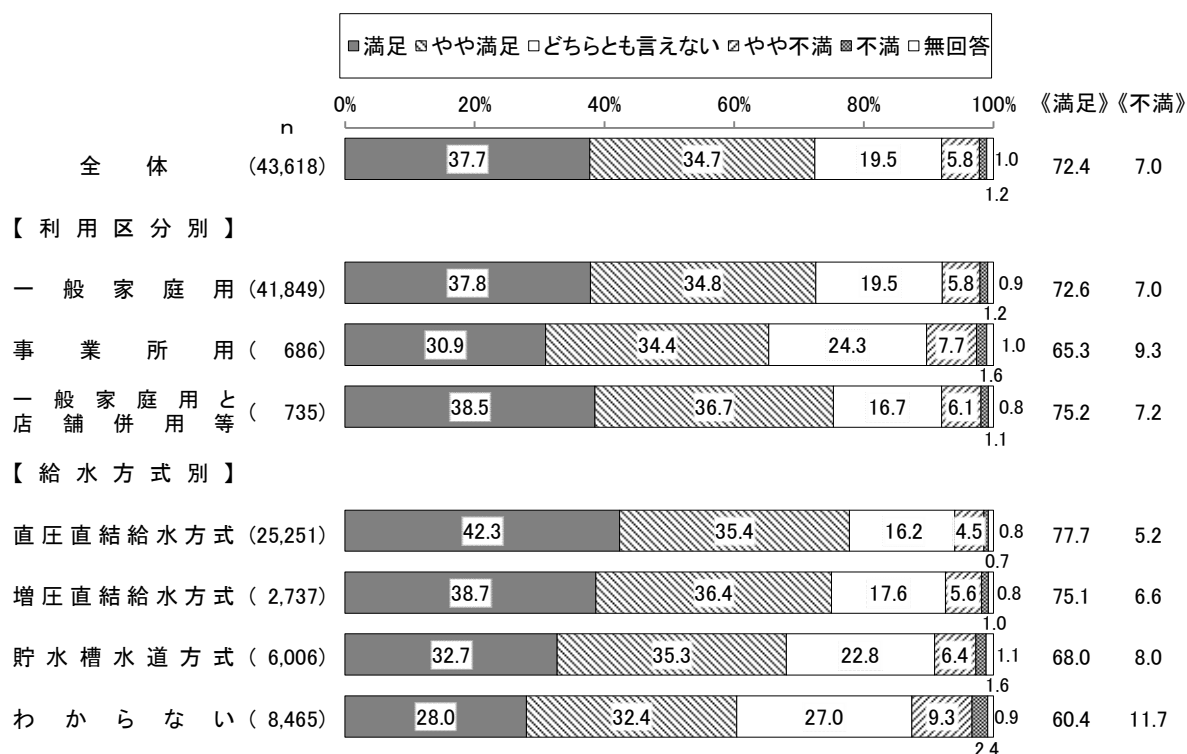
問 東京の水道水のにおい（カルキ臭・かび臭等）の少なさを、どのように感じますか。

1) 満足 2) やや満足 3) どちらとも言えない 4) やや不満 5) 不満

〔C : 問 10〕

〔調査結果〕

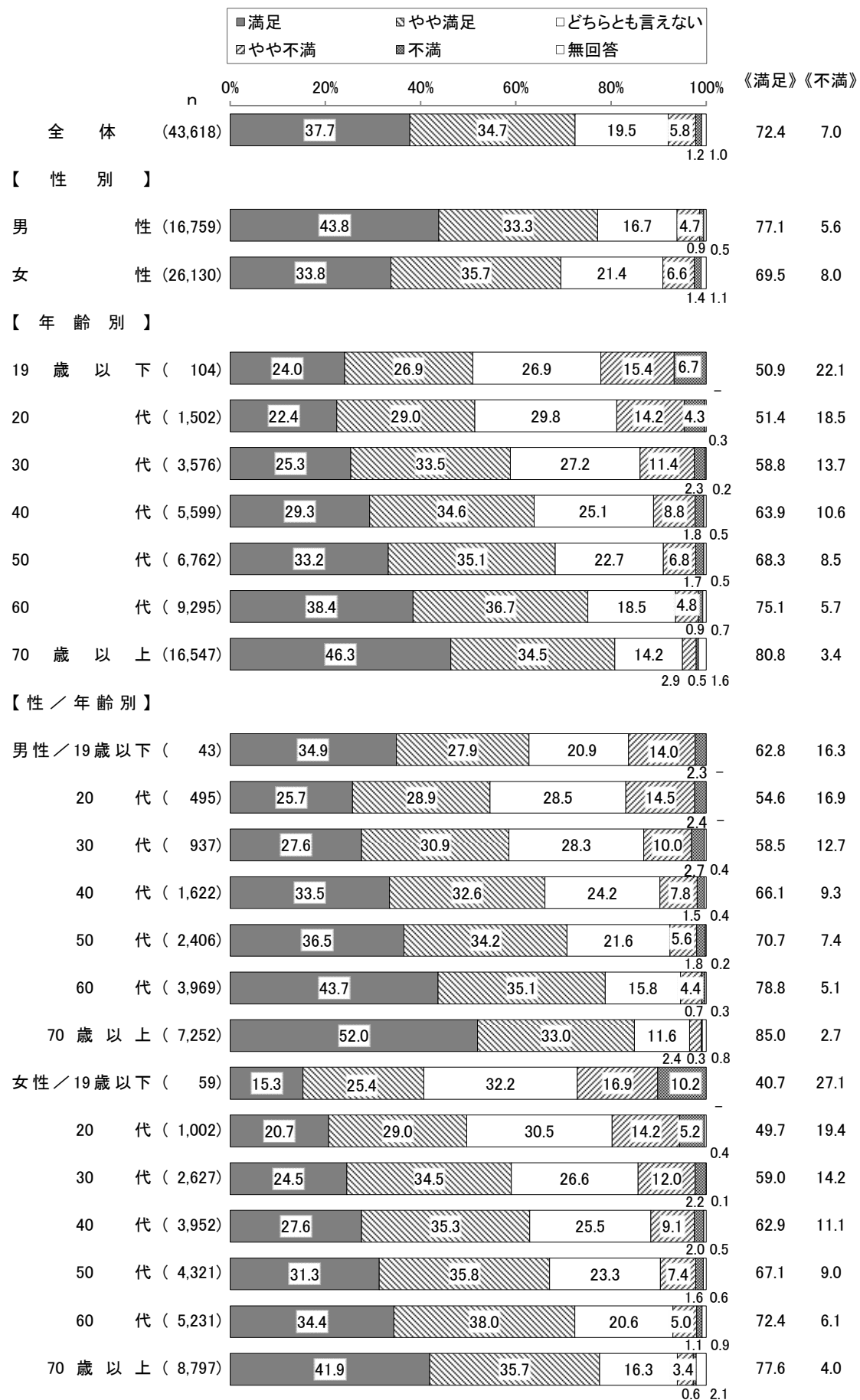
① におい（カルキ臭・かび臭等）の少なさの満足度（給水方式別）〈図表 2-2-4 1〉



＜特徴＞

- 全体でみると、「満足」が37.7%で最も高く、「やや満足」(34.7%)を合わせた《満足》は72.4%となっている。一方、《不満》は7.0%で、「どちらとも言えない」は19.5%となっている。
- 利用区分別では、《満足》は、一般家庭用と店舗併用等で75.2%と最も高くなっている。
- 給水方式別では、《満足》は、直圧直結給水方式で77.7%と最も高くなっている。

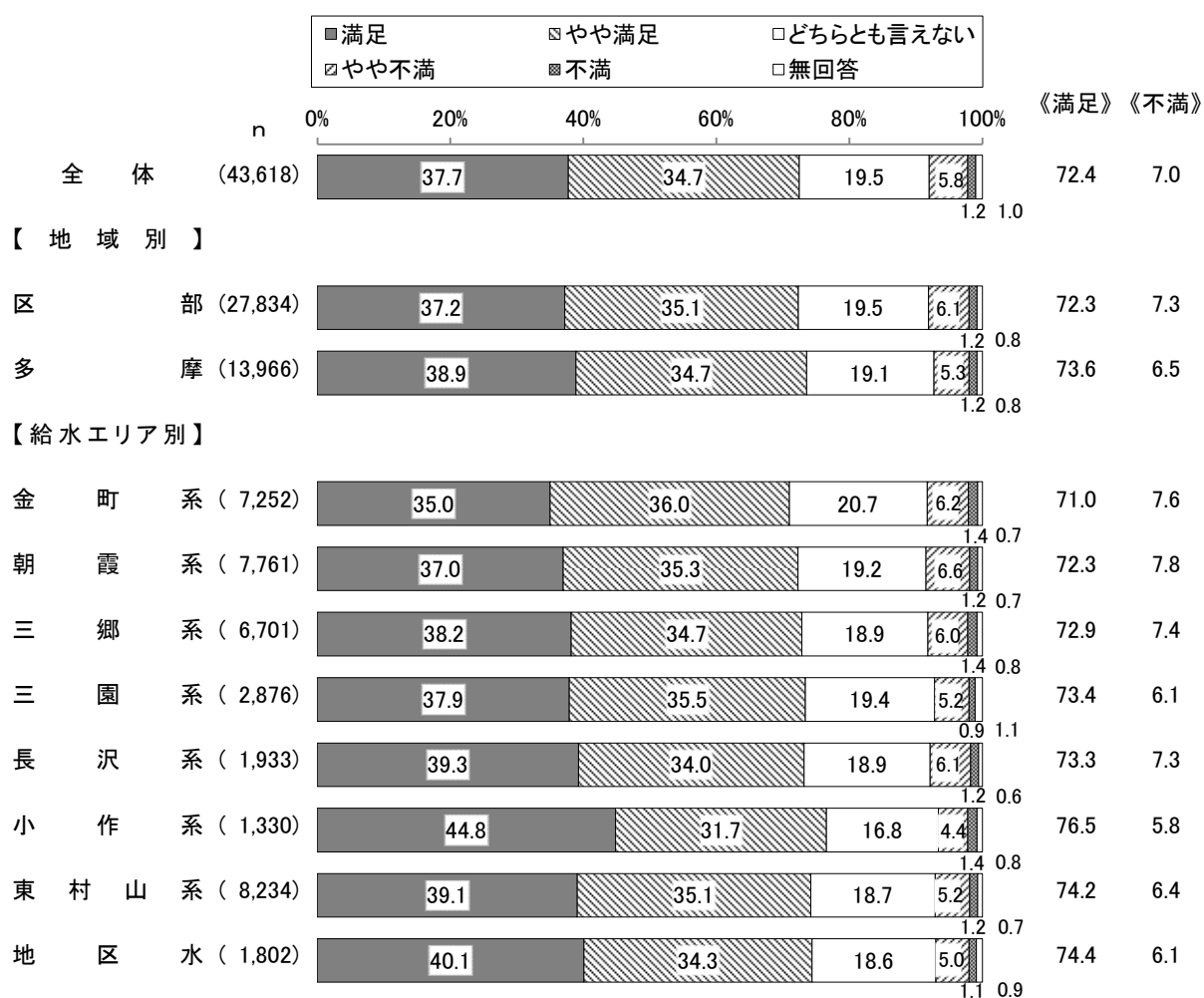
② におい（カルキ臭・かび臭等）の少なさの満足度（属性別）〈図表２－２－４２〉



<特徴>

- 性別では、《満足》は、男性（77.1%）の方が女性（69.5%）より7.6ポイント高くなっている。
- 年齢別では、《満足》は、19歳以下（50.9%）が最も低く、年齢が上がるにつれ割合は高くなり、70歳以上（80.8%）で最も高くなっている。
- 性／年齢別では、《満足》は、女性の19歳以下（40.7%）が4割で最も低く、男性の70歳以上（85.0%）が8割台半ばと最も高くなっている。

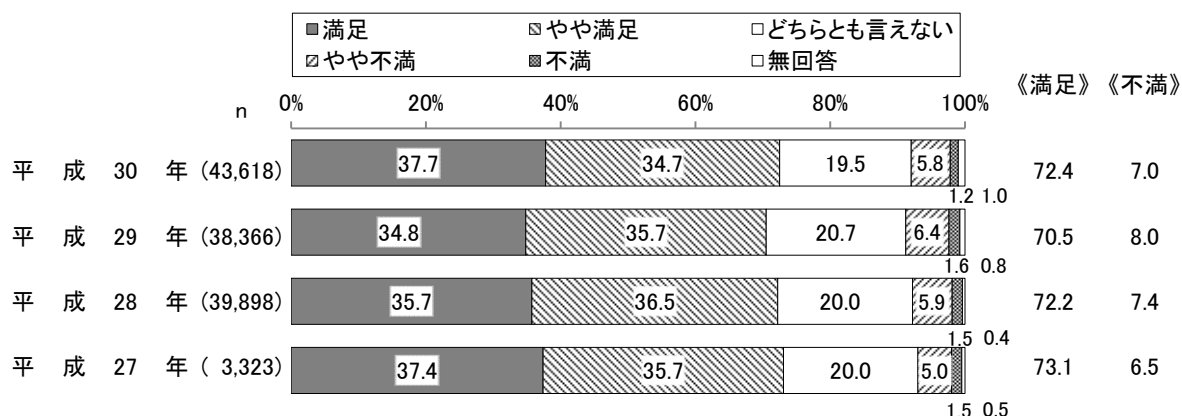
③ におい（カルキ臭・かび臭等）の少なさの満足度（地区別、給水エリア別）〈図表2-2-43〉



<特徴>

- 地域別では、区部と多摩の割合に特に大きな違いはみられない。
- 給水エリア別では、《満足》は小作系（76.5%）が最も高くなっている。

④ におい（カルキ臭・かび臭等）の少なさの満足度（時系列：全体）〈図表 2－2－4 4〉

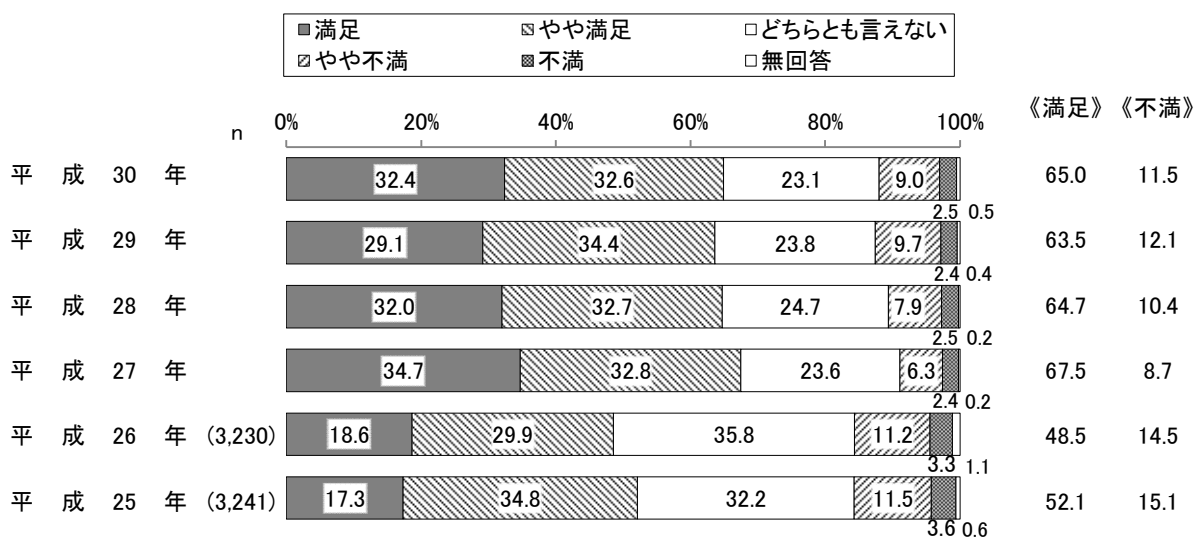


<特徴>

○前年度調査との比較では、特に大きな違いはみられない。

平成27年度から平成30年度までの4年間の傾向でも、特に大きな違いはなく、《満足》が7割強、「どちらとも言えない」が2割前後で推移している。

参考 におい（カルキ臭・かび臭等）の少なさの満足度（時系列：全体）〈図表 2－2－4 5〉



<特徴>

○参考までにウェイトバック集計値で、今年度調査を全体で見ると、《満足》は65.0%となっている。「どちらとも言えない」は23.1%となっている。

(7) にごりの少なさ・透明度の満足度

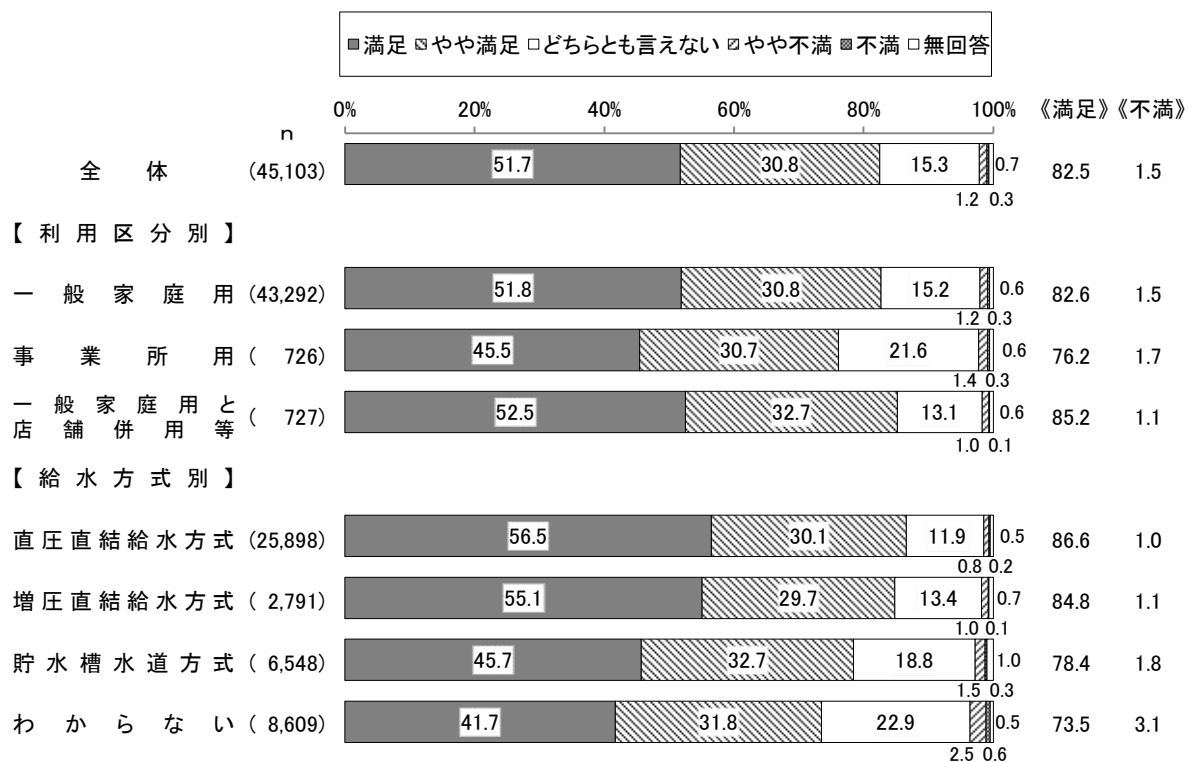
問 東京の水道水のにごりの少なさ・透明度について、どのように感じますか。

1) 満足 2) やや満足 3) どちらとも言えない 4) やや不満 5) 不満

[A : 問 10]

[調査結果]

① にごりの少なさ・透明度の満足度（給水方式別）〈図表 2-2-46〉



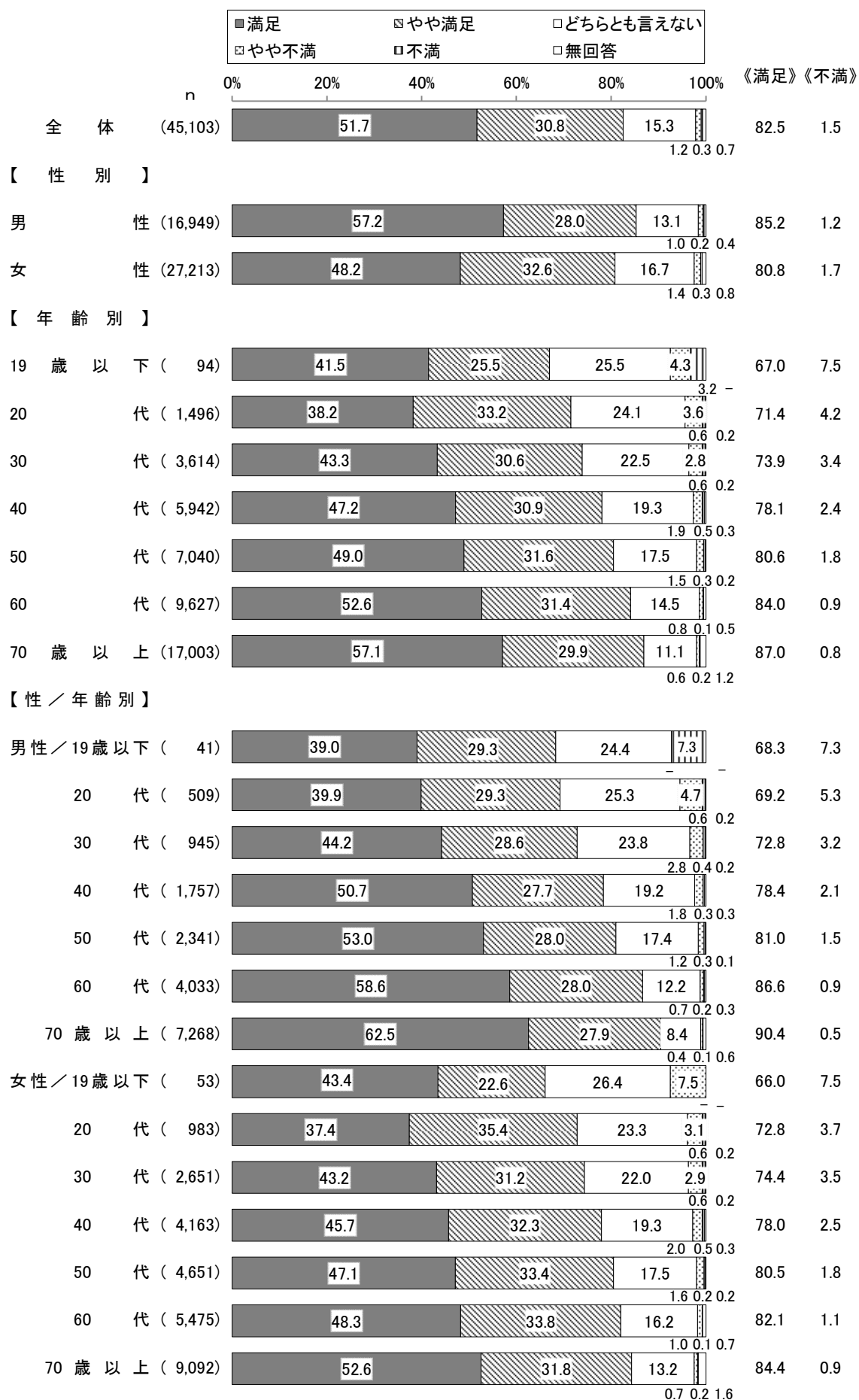
<特徴>

○全体でみると、「満足」が51.7%と最も高く、「やや満足」(30.8%)を合わせた《満足》は82.5%を占めている。一方、《不満》は1.5%となっている。

○利用区分別では、《満足》は、一般家庭用と店舗併用等で85.2%と最も高くなっている。

○給水方式別では、《満足》は、直圧直結給水方式で86.6%と最も高く、増圧直結給水方式が84.8%と続いている。

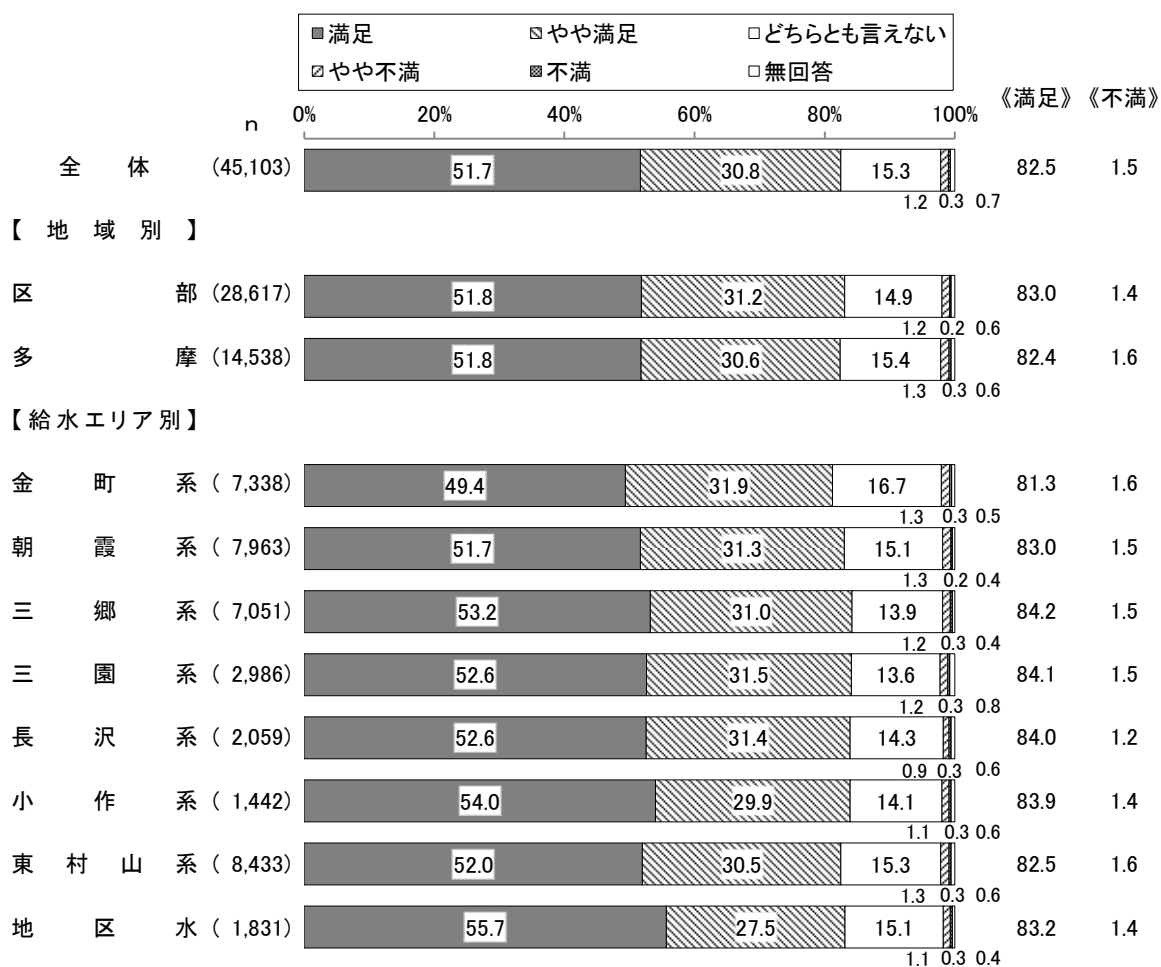
② にごりの少なさ・透明度の満足度（属性別）〈図表 2－2－47〉



<特徴>

- 性別では、《満足》は、男性（85.2%）の方が女性（80.8%）より4.4ポイント高くなっている。
- 年齢別では、《満足》は、19歳以下（67.0%）で最も低く、年齢が上がるにつれ割合は高くなり、70歳以上（87.0%）で最も高くなっている。
- 性／年齢別では、《満足》は、男女ともに年齢が上がるにつれ高くなり、男性の70歳以上（90.4%）で最も高くなっている。

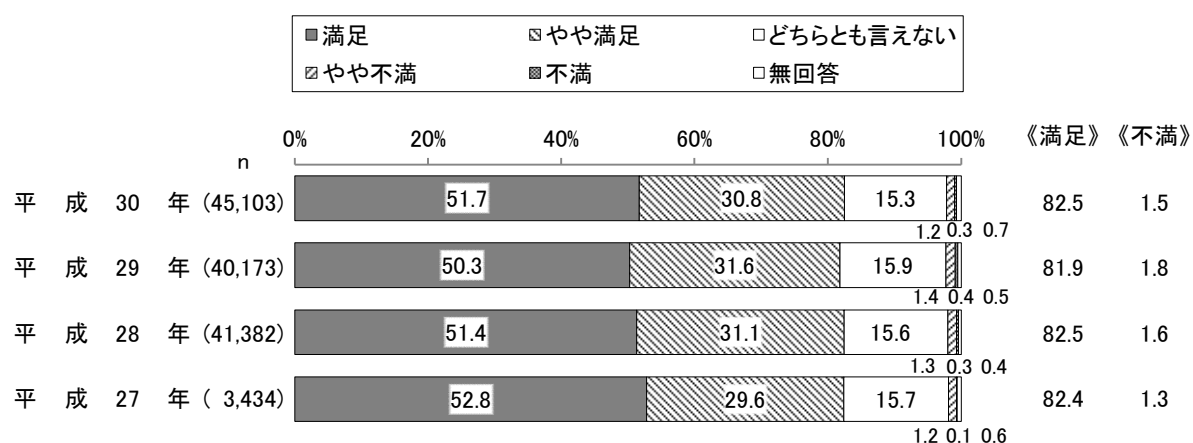
③ にごりの少なさ・透明度の満足度（給水エリア別）〈図表2-2-48〉



<特徴>

- 地域別では、区部と多摩の割合に特に大きな違いはみられない。
- 給水エリア別では、「満足」は、地区水（55.7%）で最も高く、金町系（49.4%）で最も低くなっているが、《満足》でみると、特に大きな違いはみられない。

④ にごりの少なさ・透明度の満足度（時系列：全体）〈図表２－２－４９〉

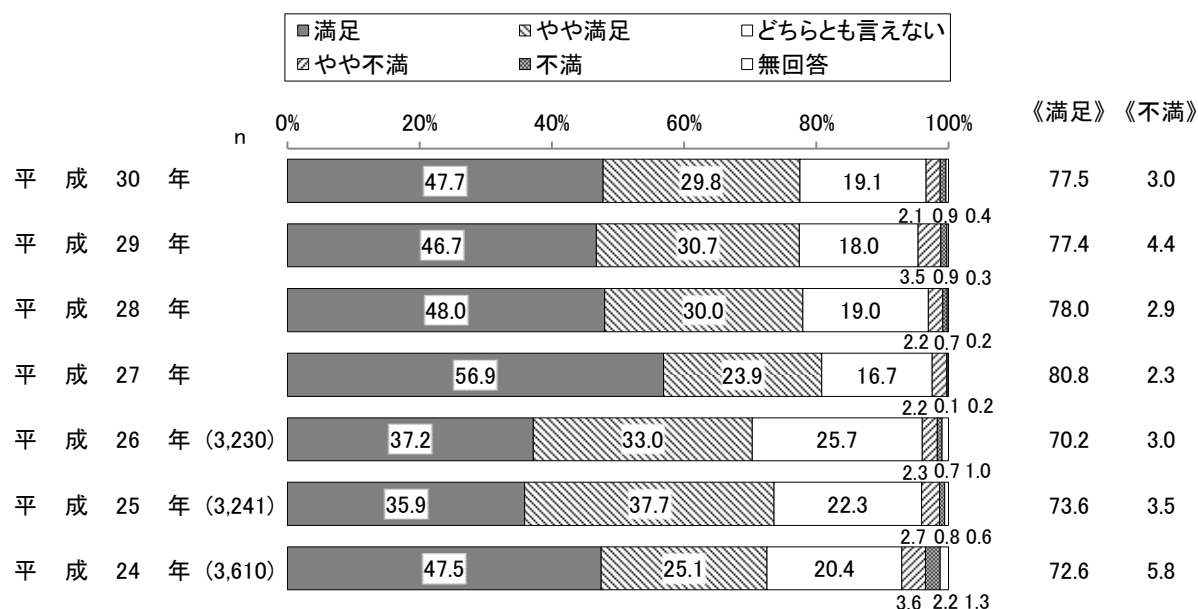


<特徴>

○前年度調査との比較では、特に大きな違いはみられない。

平成27年度から平成30年度までの4年間の傾向でも、特に大きな違いはなく、《満足》が8割強、「どちらとも言えない」が1割台半ばで推移している。

参考 にごりの少なさ・透明度の満足度（時系列：全体）〈図表２－２－５０〉



<特徴>

○参考までにウェイトバック集計値で、今回調査を全体で見ると、《満足》は77.5%となっている。「どちらとも言えない」は19.1%となっている。

(8) 安全性の満足度

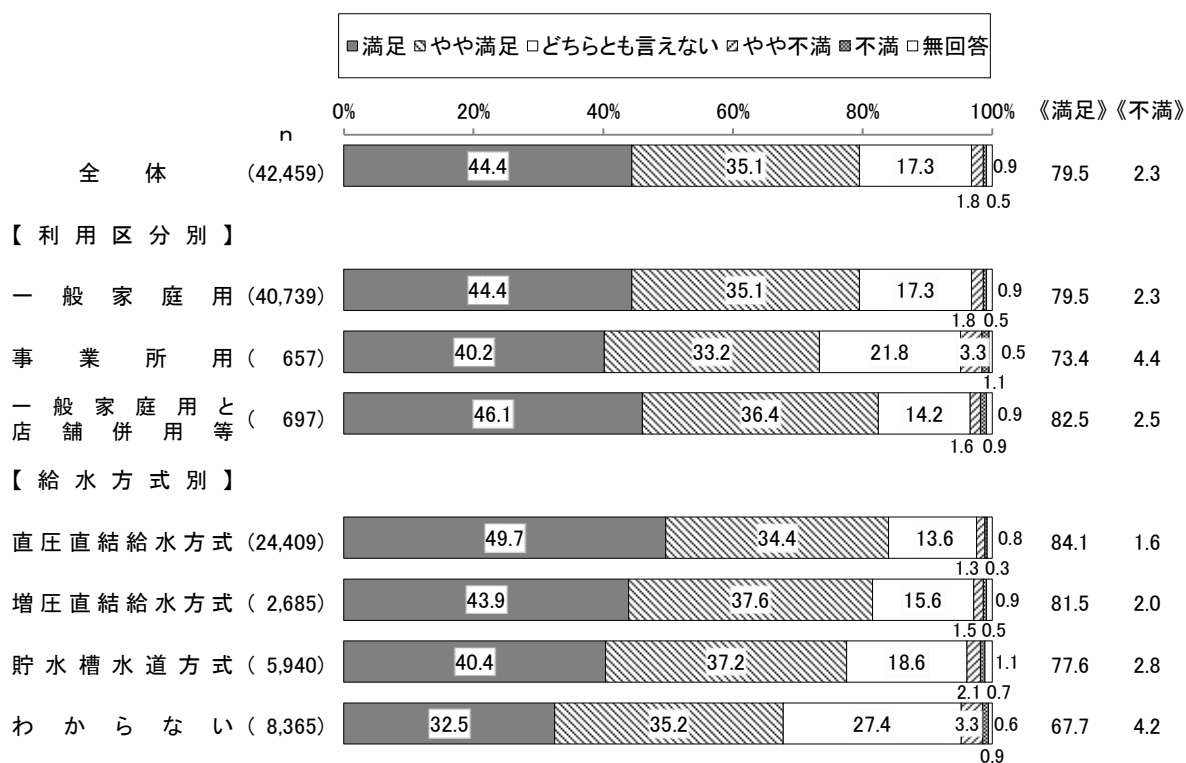
問 東京の水道水の安全性を、どのように感じますか。

1) 満足 2) やや満足 3) どちらとも言えない 4) やや不満 5) 不満

〔D：問9〕

〔調査結果〕

① 安全性の満足度（給水方式別）〈図表2-2-51〉



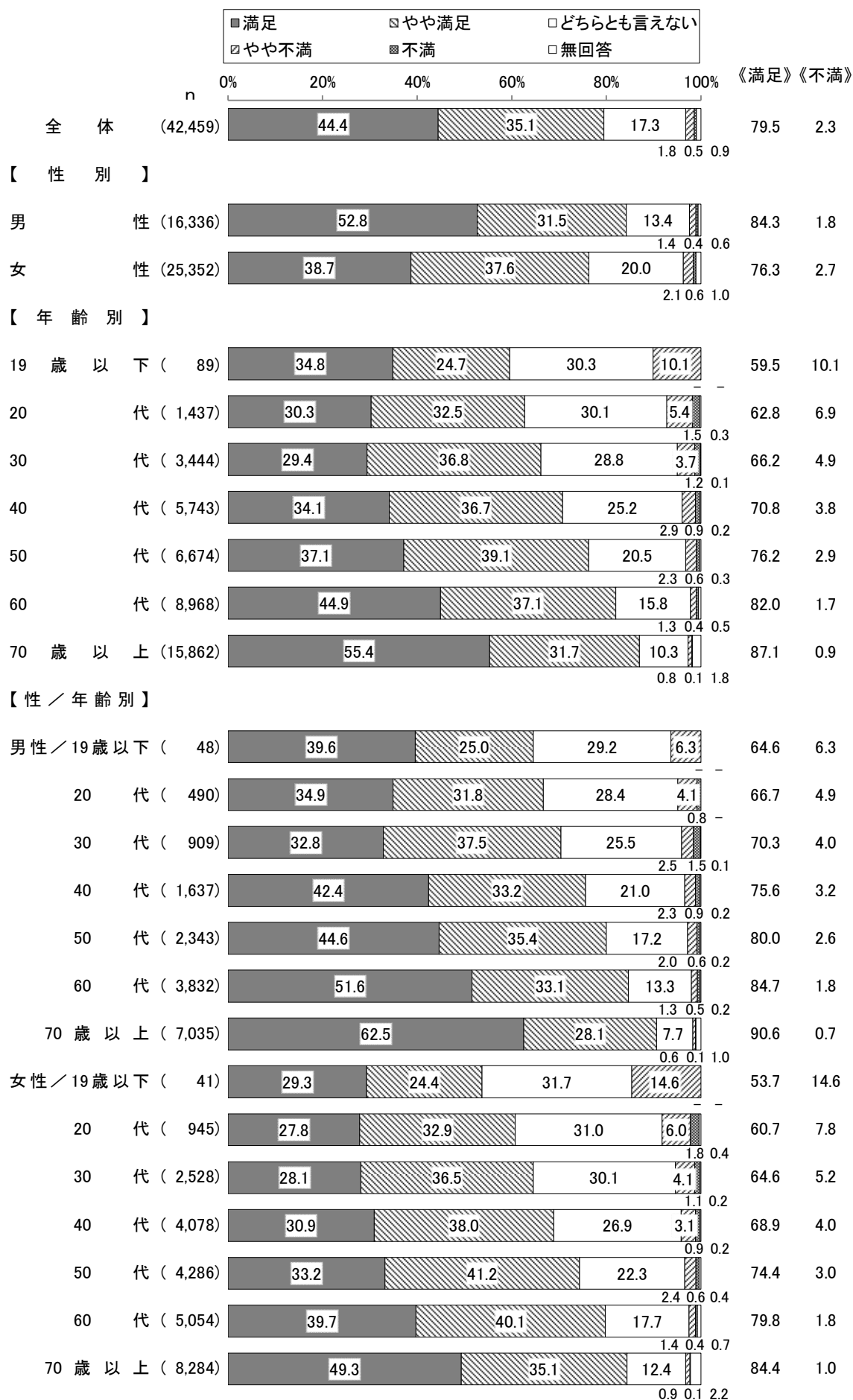
＜特徴＞

○全体でみると「満足」が44.4%で最も高く、「やや満足」(35.1%)を合わせた《満足》は79.5%となっている。一方、《不満》は2.3%となっている。

○利用区分別では、《満足》は、一般家庭用と店舗併用等で82.5%と最も高くなっている。

○給水方式別では、《満足》は、直圧直結給水方式で84.1%と最も高く、増圧直結給水方式が81.5%と続いている。

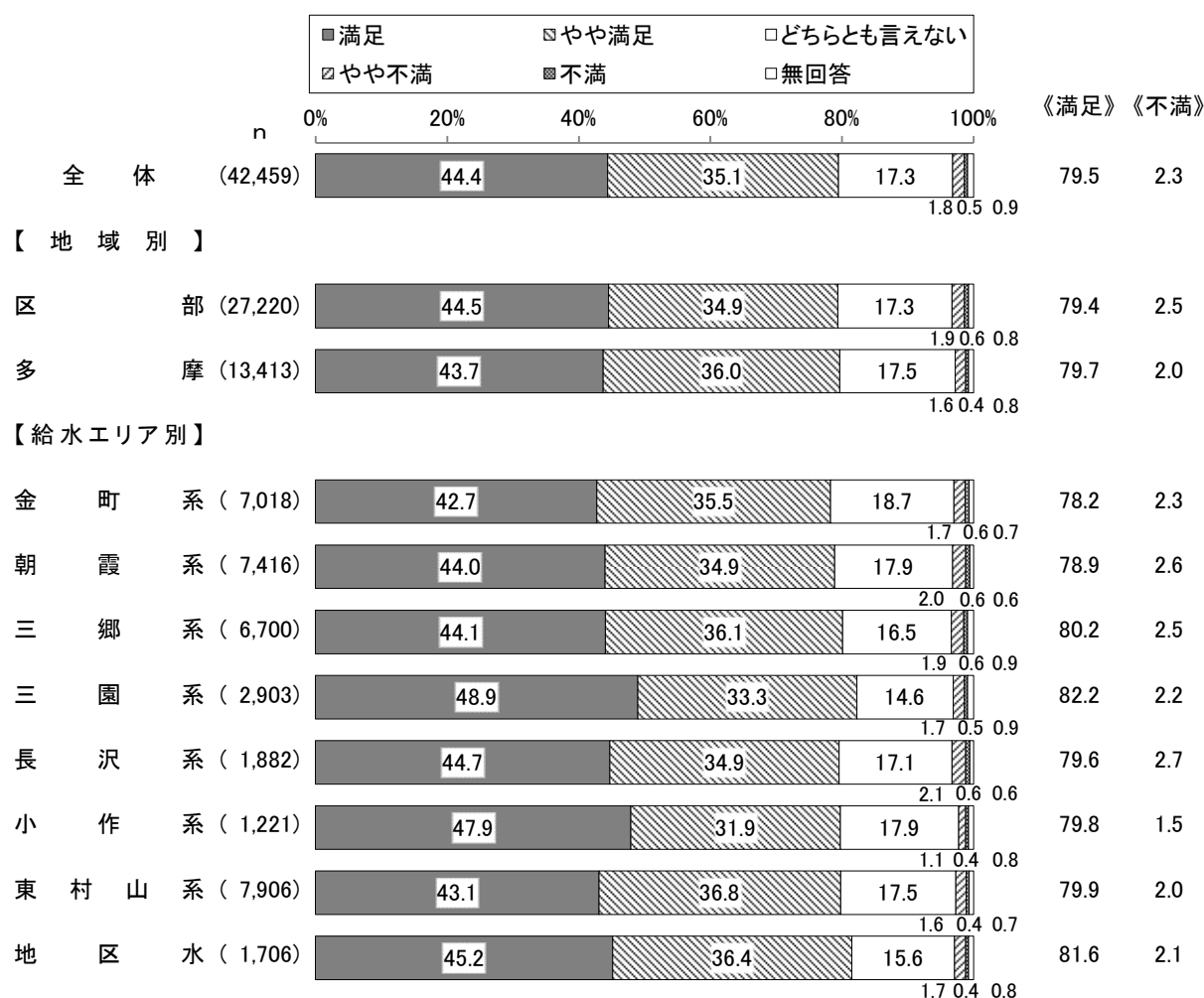
② 安全性の満足度（属性別）〈図表 2－2－5 2〉



<特徴>

- 性別では、《満足》は、男性（84.3%）の方が女性（76.3%）より8.0ポイント高くなっている。
- 年齢別では、《満足》は、19歳以下（59.5%）で最も低く、年齢が上がるにつれ高くなり、70歳以上（87.1%）で最も高くなっている。
- 性／年齢別では、《満足》は、男女ともに年齢が上がるにつれ割合が高くなっており、男性の70歳以上（90.6%）で最も高くなっている。

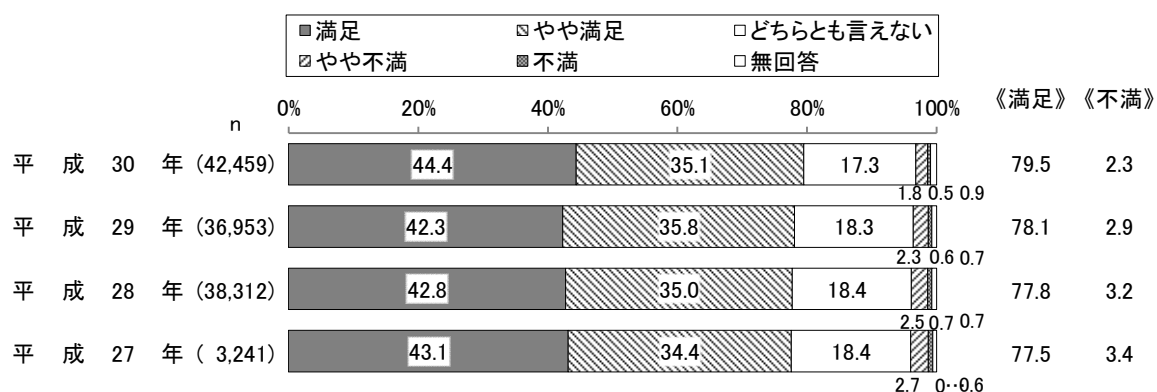
③ 安全性の満足度（地区別、給水エリア別）〈図表2-2-53〉



<特徴>

- 地域別では、区部と多摩の割合に特に大きな違いはみられない。
- 給水エリア別では、「満足」は、三園系（48.9%）で最も高く、金町系（42.7%）で最も低くなっているが、《満足》でみると特に大きな違いはみられない。

④ 安全性の満足度（時系列：全体）〈図表 2－2－5 4〉

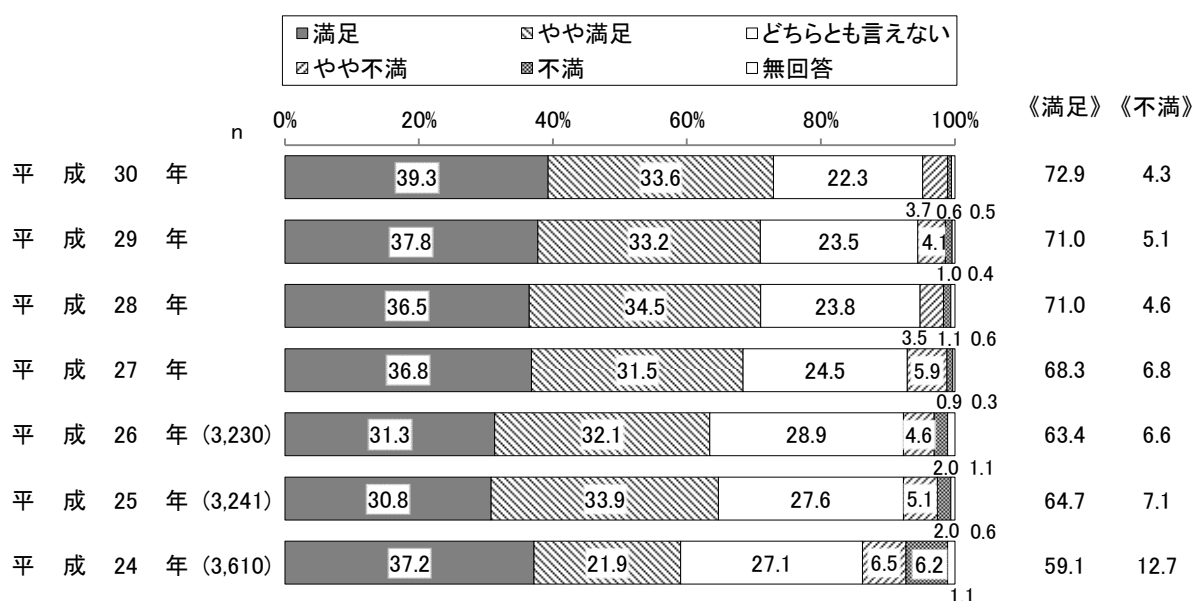


<特徴>

○前年度調査との比較では、特に大きな違いはみられない。

平成27年度から平成30年度までの4年間の傾向でも、特に大きな違いはなく、《満足》が7割台半ばから8割近く、「どちらとも言えない」が2割近くで推移している。

参考 安全性の満足度（時系列：全体）〈図表 2－2－5 5〉



<特徴>

○参考までにウェイトバック集計値で、今回調査を全体で見ると、《満足》は72.9%となっている。「どちらとも言えない」は22.3%となっている。

(9) 水道水の出具合（水量・水圧）の満足度

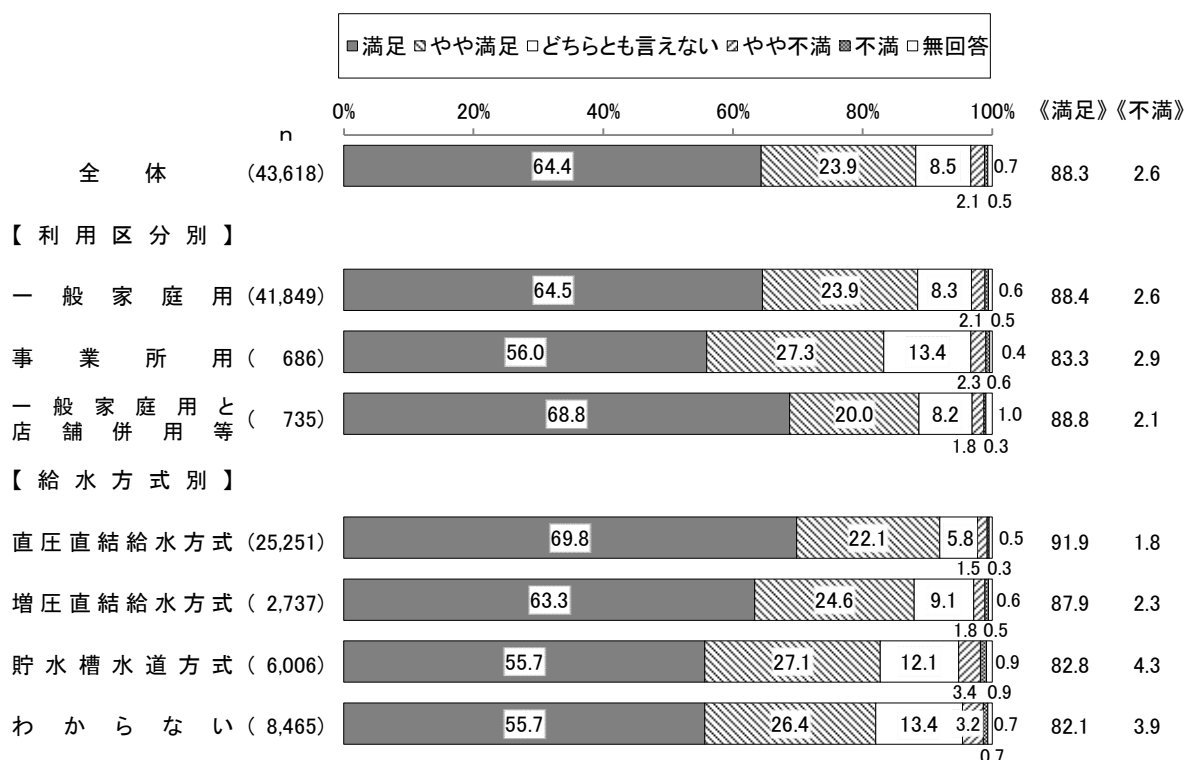
問 東京の水道水の出具合（水量・水圧）を、どのように感じますか。

1) 満足 2) やや満足 3) どちらとも言えない 4) やや不満 5) 不満

[C : 問 11]

[調査結果]

① 水道水の出具合（水量・水圧）の満足度（給水方式別）〈図表 2－2－56〉



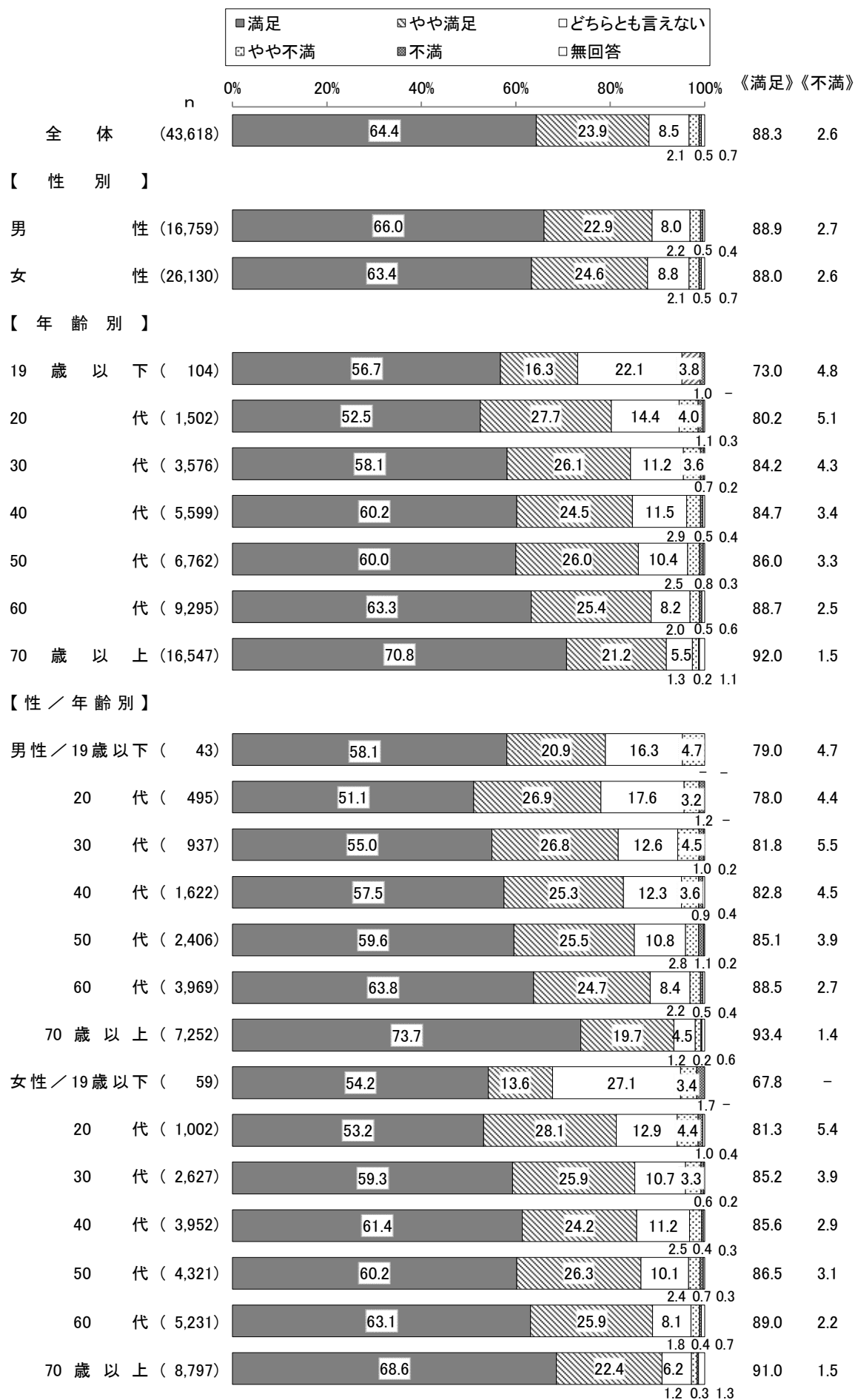
<特徴>

○全体でみると「満足」が64.4%で最も高く、「やや満足」（23.9%）を合わせた《満足》は88.3%を占めている。一方、《不満》は2.6%となっている。

○利用区分別では、《満足》は、一般家庭用でと店舗併用等で88.8%と最も高くなっている。

○給水方式別では、《満足》は、直圧直結給水方式で91.9%と最も高くなっている。

② 水道水の出具合（水量・水圧）の満足度（属性別）〈図表２－２－５７〉



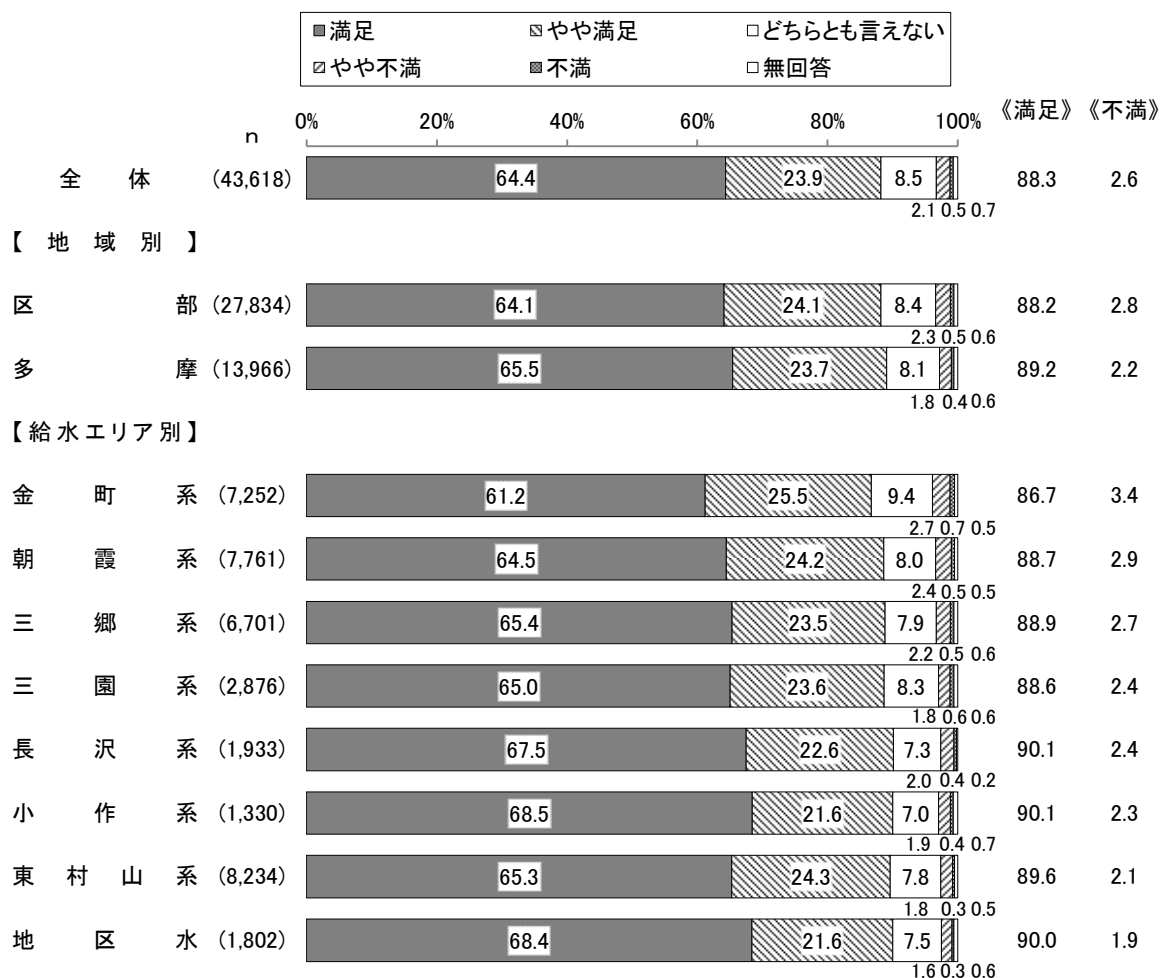
<特徴>

○性別では、特に大きな違いはみられない。

○年齢別では、《満足》は、19歳以下（73.0%）で最も低く、年齢が上がるにつれ割合は高くなり、70歳以上（92.0%）で最も高くなっている。

○性／年齢別では、《満足》は、男女ともに年齢が上がるにつれ割合が高くなっており、男性の70歳以上（93.4%）で9割台半ばと高くなっている。

③ 水道水の出具合（水量・水圧）の満足度（地区別、給水エリア別）〈図表2-2-58〉

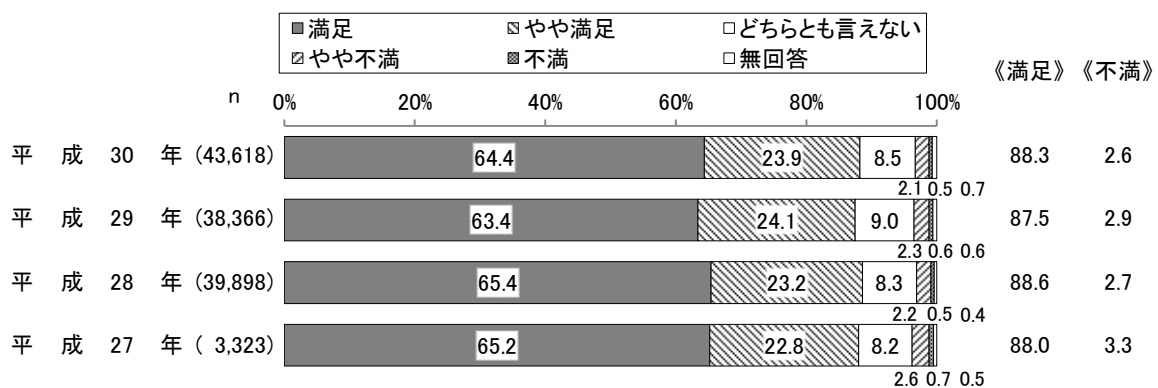


<特徴>

○地域別では、区部と多摩の割合に特に大きな違いはみられない。

○給水エリア別では、《満足》は、長沢系と小作系（ともに90.1%）で最も高く、金町系（86.7%）で最も低くなっている。

④ 水道水の出具合（水量・水圧）の満足度（時系列：全体）〈図表２－２－５９〉

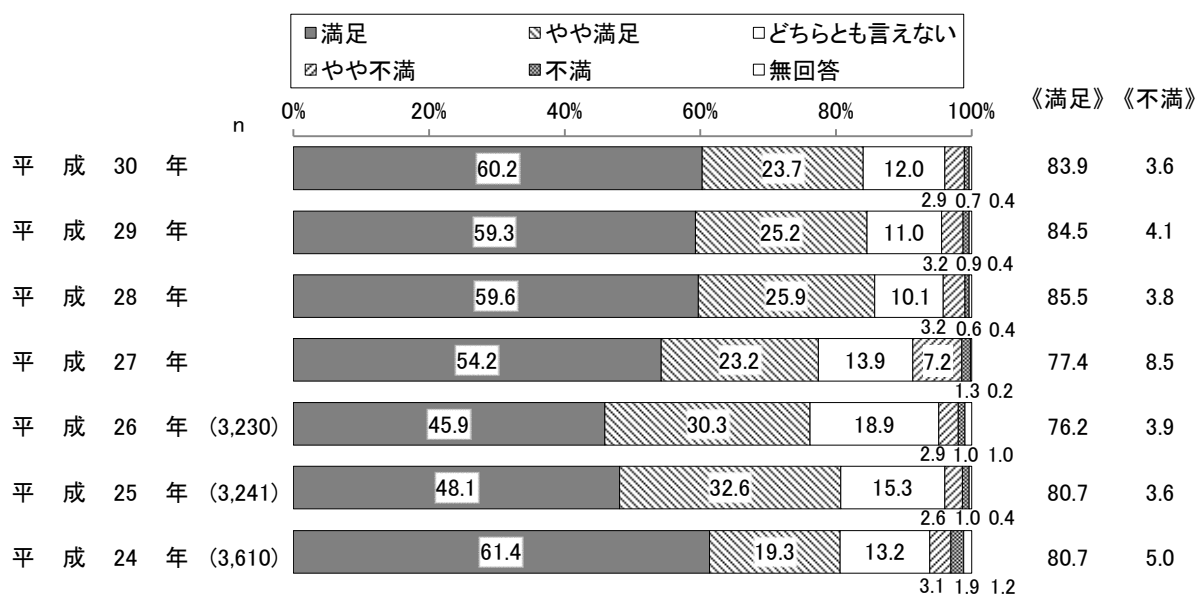


＜特徴＞

○前年度調査との比較では、特に大きな違いはみられない。

平成27年度から平成30年度までの4年間の傾向でも、特に大きな違いはなく、《満足》が9割近く、「どちらとも言えない」が1割近くで推移している。

参考 水道水の出具合（水量・水圧）の満足度（時系列：全体）〈図表２－２－６０〉



＜特徴＞

○参考までにウェイトバック集計値で、今回調査を全体で見ると、《満足》は83.9%となっている。「どちらとも言えない」は12.0%となっている。

(10) 水質に対する満足度に関する詳細分析

① 飲み水としての水質の満足度と味やにおいなどの満足度との関係

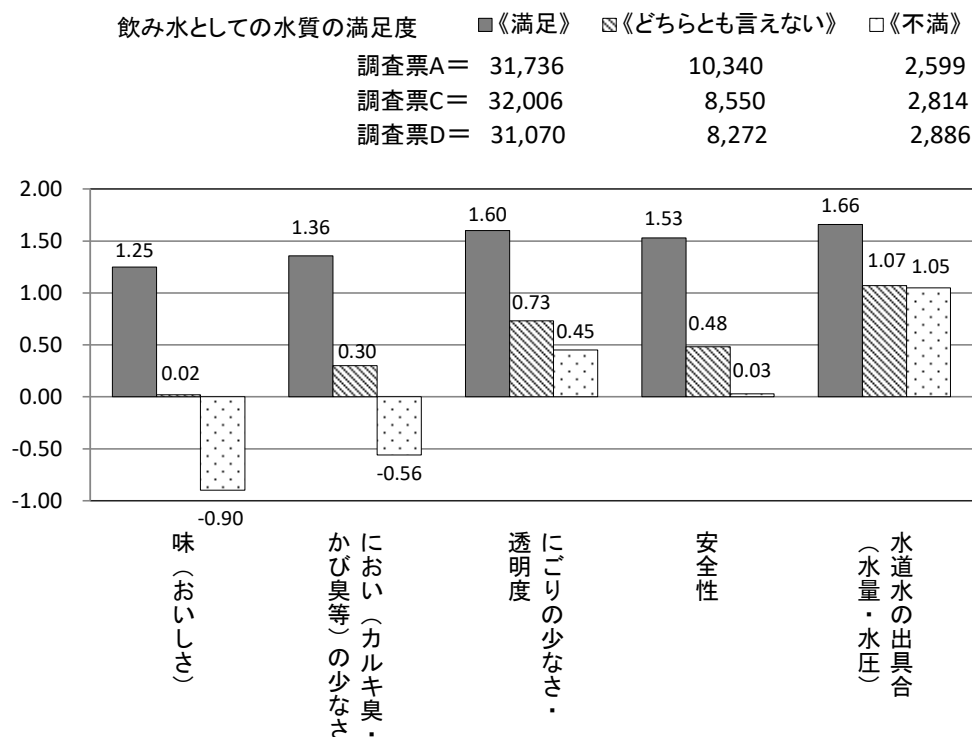
○味やにおいなどの満足度とは、「味（おいしさ）」、「におい（カルキ臭・かび臭等）の少なさ」、「にごりの少なさ・透明度」、「安全性」、「水道水の出具合（水量・水圧）」の5項目での満足度をいう。

○飲み水としての水質の満足度と、味やにおいなどの満足度の関係性をみるに当たって、味やにおいなどの比較を簡単にするため、下式のように5段階評価を与えて、平均点を算出した。

$$\text{平均点} = \frac{[\text{「満足」} \times 2 \text{ 点}] + [\text{「やや満足」} \times 1 \text{ 点}] + [\text{「どちらとも言えない」} \times 0 \text{ 点}] + [\text{「やや不満」} \times (-1 \text{ 点})] + [\text{「不満」} \times (-2 \text{ 点})]}{\text{回答者数} - \text{無回答}}$$

この算出方法では、平均点は-2.00点から2.00点の間に分布し、0.00点が中間点であり、2.00点に近いほど満足度は高く、逆に-2.00点に近いほど満足度が低いということを表す。

〈図表 2-2-6 1〉



〈特徴〉

○味やにおいなどの満足度について、飲み水としての水質に《満足》と回答した人では、5項目全てが1.00点以上の満足度となっているが、「味（おいしさ）」と「におい（カルキ臭・かび臭等）の少なさ」が、他の3項目に比べるとやや低い。一方、水質に《不満》と回答した人では、「味（おいしさ）」と「におい（カルキ臭・かび臭等）の少なさ」での満足度がマイナスとなっており、「味」と「におい」とが飲み水としての水質の評価を左右しているといえる。

(11) 水道水の水質検査項目がミネラルウォーターより多いことの認知度

問 水道水に関して、法令で安全のため水質検査項目が定められており、その項目数はミネラルウォーターより多いことを知っていますか。

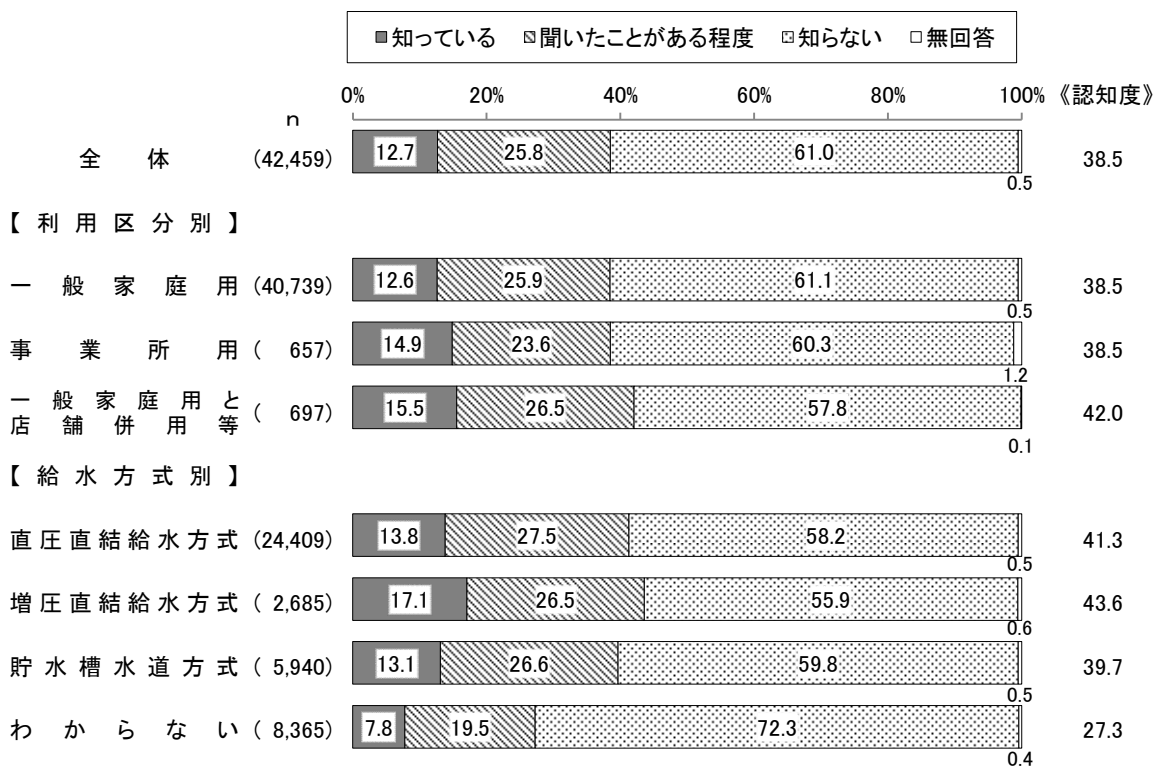
1) 知っている 2) 聞いたことがある程度 3) 知らない

〔D：問10〕

〔調査結果〕

① 水道水の水質検査項目がミネラルウォーターより多いことの認知度（利用区分別、給水方式別）

〈図表2-2-62〉

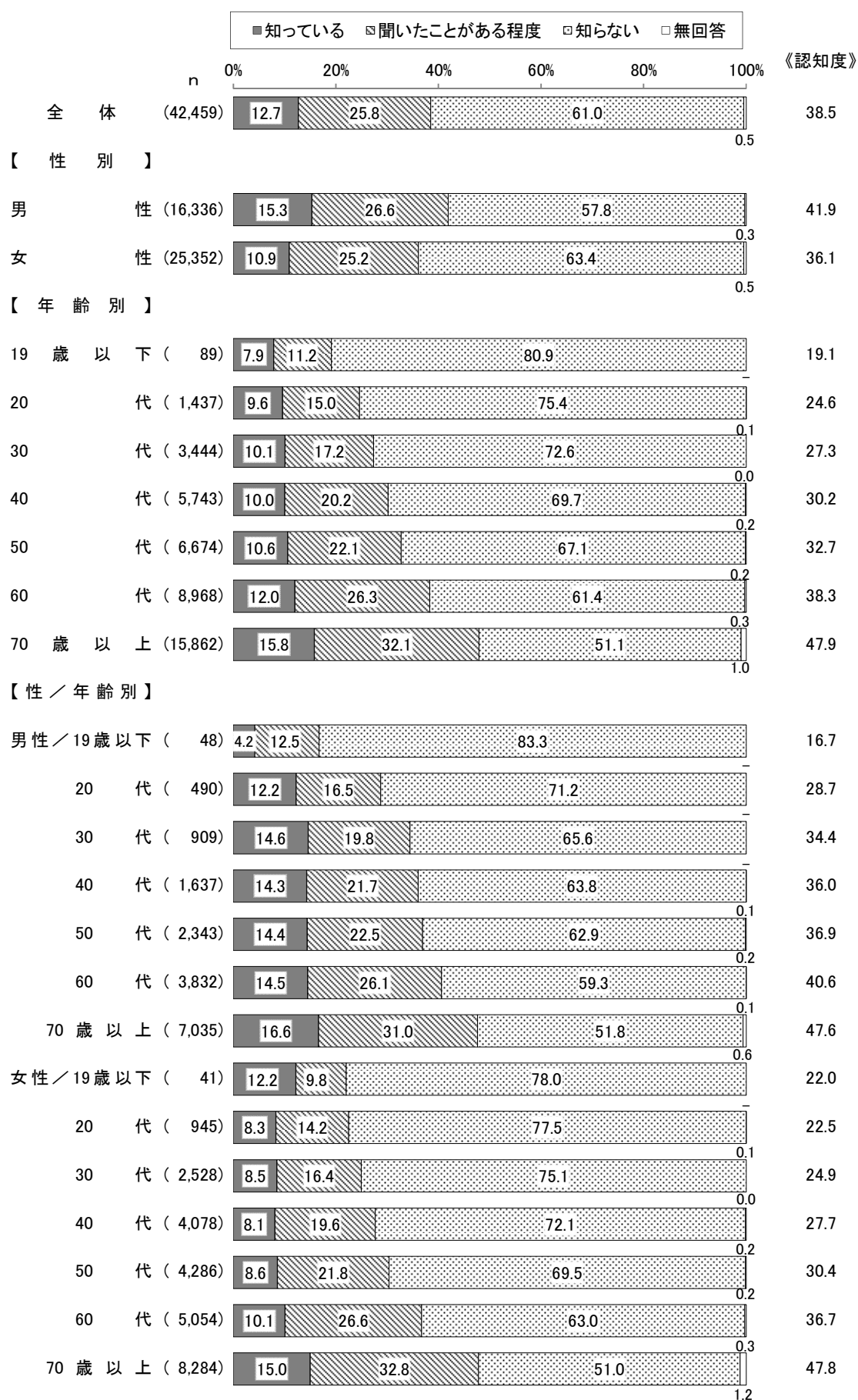


＜特徴＞

- 全体でみると、「知らない」が61.0%で最も高くなっている。次いで「聞いたことがある程度」が25.8%で、「聞いたことのある程度」と「知っている」（12.7%）を合わせた《認知度》は38.5%となっている。
- 利用区分別では、《認知度》は、一般家庭用と店舗併用等で42.0%と最も高くなっている。
- 給水方式別では、《認知度》は、増圧直結給水方式で43.6%と最も高く、直圧直結給水方式が41.3%と続いている。

② 水道水の水質検査項目がミネラルウォーターより多いことの認知度（属性別）

〈図表2-2-63〉

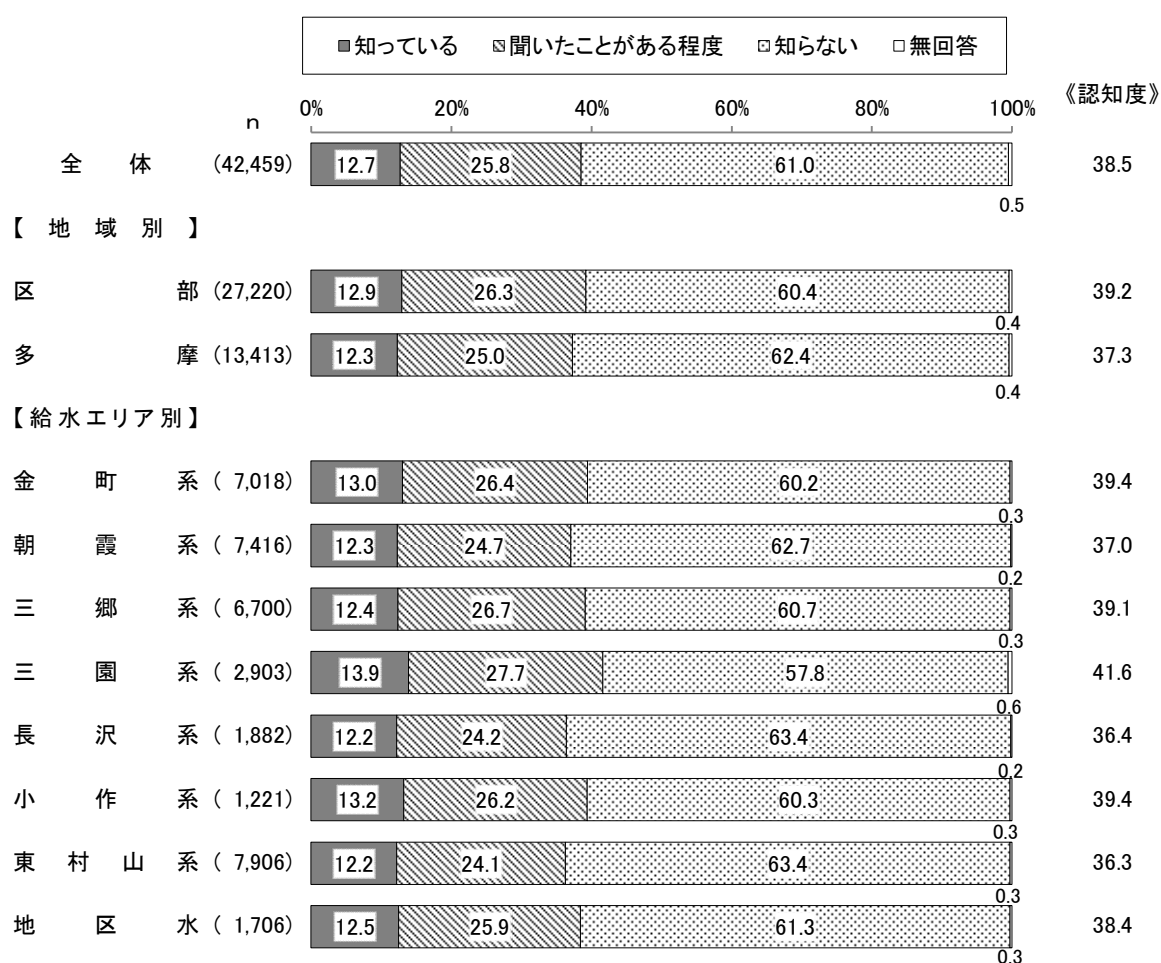


<特徴>

- 性別では、《認知度》は、男性（41.9%）の方が女性（36.1%）より5.8ポイント高くなっている。
- 年齢別では、《認知度》は、19歳以下（19.1%）で2割弱と最も低く、年齢が上がるにつれ高くなり、70歳以上（47.9%）で5割近くと最も高くなっている。
- 性／年齢別では、《認知度》は、男女ともに年齢が上がるにつれ高くなり、女性の70歳以上（47.8%）で最も高くなっている。

③ 水道水の水質検査項目がミネラルウォーターより多いことの認知度（地区別、給水エリア別）

〈図表2-2-64〉

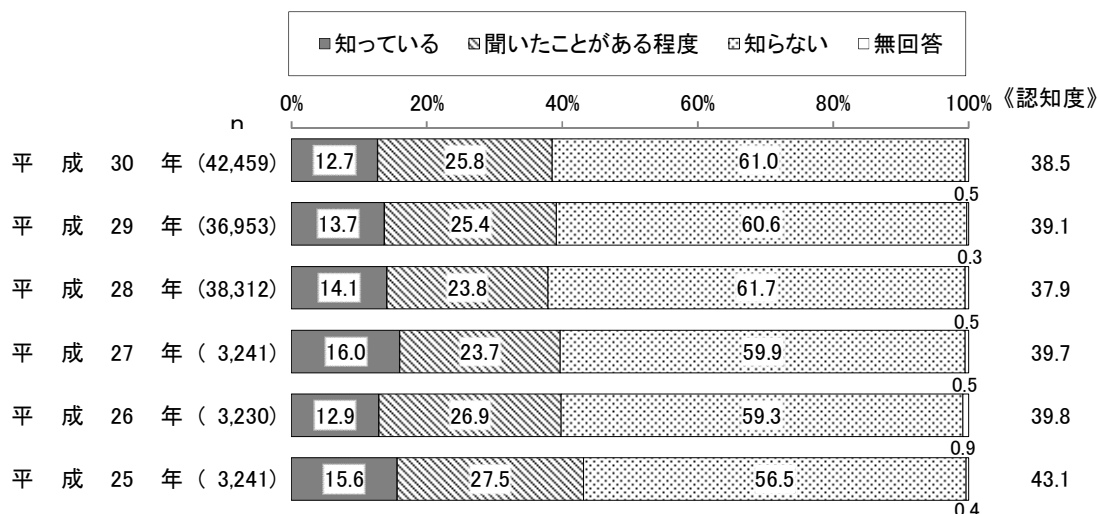


<特徴>

- 地域別では、区部と多摩の割合に特に大きな違いはみられない。
- 給水エリア別では、《認知度》は、三園系（41.6%）で最も高くなっている。

④ 水道水の水質検査項目がミネラルウォーターより多いことの認知度（時系列：全体）

〈図表 2-2-65〉



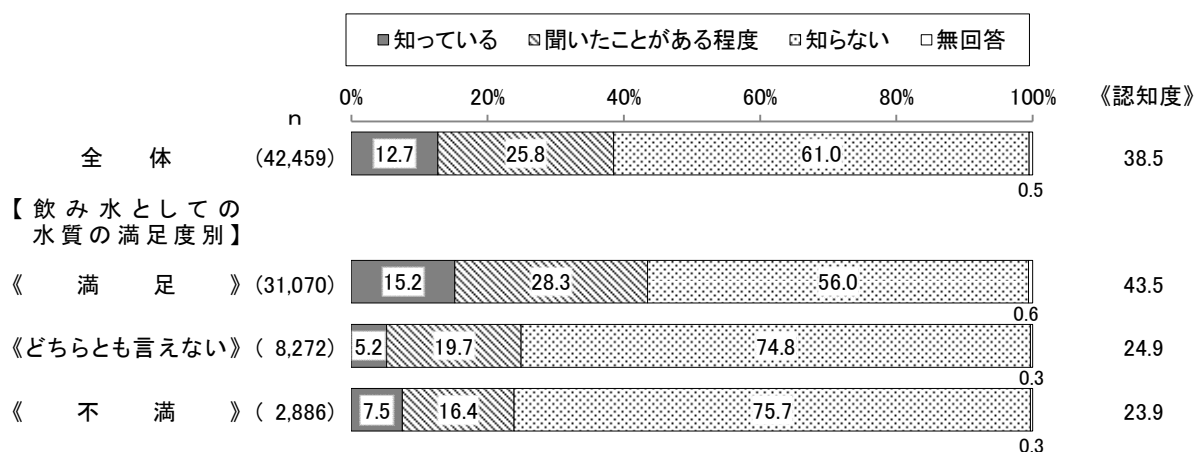
＜特徴＞

○前年度調査との比較では、特に大きな違いはみられない。

平成27年度から平成30年度までの4年間の傾向でも、特に大きな違いはなく、《認知度》は4割弱で推移している。

〔詳細分析〕（分析の軸はD票の設問）

⑤ 水道水の水質検査項目がミネラルウォーターより多いことの認知度（飲み水としての水質の満足度別）〈図表 2-2-66〉



＜特徴＞

○飲み水としての水質の満足度別では、「知っている」は、飲み水としての水質に《満足》な人（15.2%）の方が、《不満》な人（7.5%）より7.7ポイント高くなっている。また、飲み水としての水質に《満足》な人で「知っている」と「聞いたことがある程度」（28.3%）を合わせた『認知度』は43.5%となり、《不満》な人（23.9%）より19.6ポイント高くなっている。